

エジプト・アラブ共和国
カイロ大学看護学部プロジェクト
終了時評価報告書

平成11年3月

国際協力事業団
医療協力部

序 文

エジプト国カイロ大学看護学部プロジェクトは、同国における看護レベルの向上のため同大学看護学部の機能強化を支援し、看護婦のいっそうの養成を推進することを目標として、平成6年4月1日から平成11年3月31日まで5年間の予定で実施されているものです。

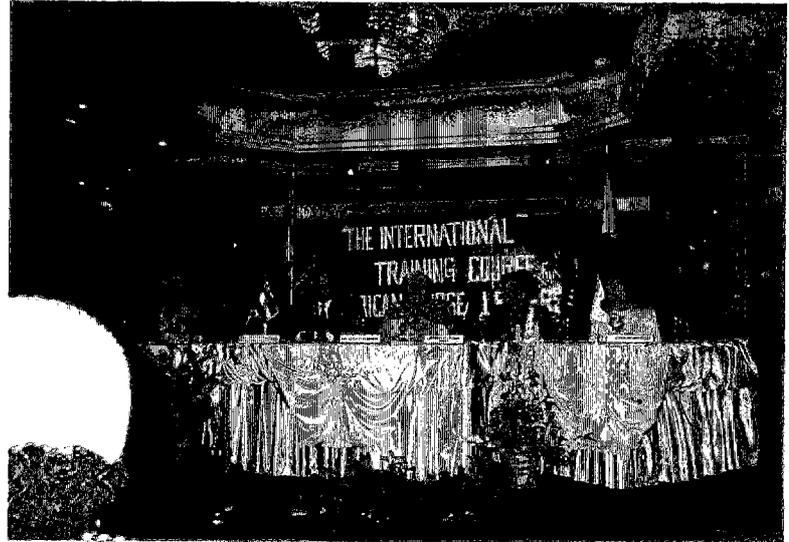
このたび、国際協力事業団は、本件実施に関する討議議事録に基づく協力期間が平成11年3月31日をもって終了するのに先立ち、これまでの協力内容などの評価をエジプト側と共同で行うために、平成10年10月23日から11月4日まで天使女子短期大学学長近藤潤子氏を団長とする終了時評価調査団を派遣しました。

本報告書は、本調査団が実施した調査および協議の内容と結果などを取りまとめたものです。ここに、本件調査にあたりご協力いただきました調査団員および関係各位に対しまして、深甚なる謝意を表しますとともに、今後とも本件技術協力の成功のために、いっそうのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成11年3月

国際協力事業団
理事 阿部 英樹

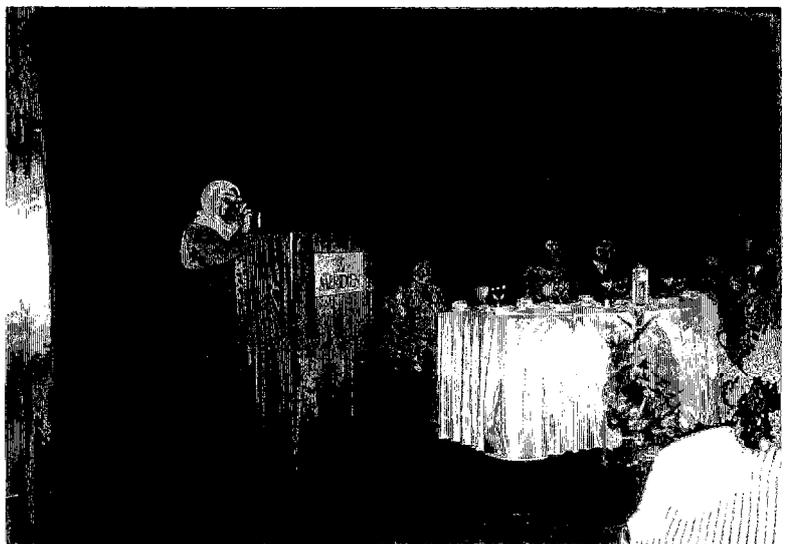
▶
エジプト保健省実施のJICA
第三国研修「看護リーダー研
修」開講式（右端は近藤団長）



▶
カイロ大学看護学科内での協議



▶
看護学科長の交代式





▶
看護実習室



▶
看護学科図書館



▶
合同評価報告書署名交換

目 次

序 文

写 真

第 1 章 終了時評価調査団の派遣	1
1 - 1 調査団派遣の経緯と目的	1
1 - 2 調査団の構成	1
1 - 3 調査日程	2
1 - 4 主要面談者	2
第 2 章 総括	4
2 - 1 調査の方針	4
2 - 2 調査の概要	4
2 - 3 調査結果の要約	5
2 - 4 今後の協力	8
2 - 5 結論および提言	9
第 3 章 プロジェクトの当初計画	10
3 - 1 プロジェクト成立の経緯	10
3 - 2 プロジェクト活動計画	11
3 - 3 相手国実施機関	12
第 4 章 プロジェクトの実績	13
4 - 1 プロジェクトの投入実績	13
4 - 2 プロジェクトの活動実績	21
第 5 章 プロジェクトの評価	23
5 - 1 プロジェクトの成果達成状況	23
5 - 2 プロジェクト運営管理の適正度	41
5 - 3 自立発展の見通しと今後の対応	42

資料

1	合同評価報告書	47
2	プロジェクト・デザイン・マトリックス (P D M)	64
3	カイロ大学看護学部教員数・生徒数の推移	65
4	カイロ大学看護学部教科別・職階別教員数の推移	66
5	HIN STAFF DEVELOPMENT PROGRAM	67
6	カイロ大学看護学部組織図	69

第1章 終了時評価調査団の派遣

1-1 調査団派遣の経緯と目的

エジプトでは、医師数に比べて看護婦が不足しており、医療施設運営に支障をきたしていること、看護技術の低水準およびその養成施設の未整備などが保健行政上解決すべき国家課題となっており、国家開発計画の重点政策のひとつに掲げられている。

このような背景のもとに、わが国は同国に対し公衆衛生看護を主体として、看護教育研究プロジェクト（1978～1983年）およびカイロ大学小児病院（1983～1986年）での臨床看護の技術移転を通じ看護婦の人材養成協力事業を実施してきた。

エジプト側はこれらのプロジェクトを高く評価し、カイロ大学看護学部を拠点として看護教育における指導者の質の向上・育成および周辺国に対する看護教育の指導的役割を果たすべくわが国に対し、同学部施設の建設にかかる無償資金協力および建設された施設を活用したプロジェクト方式技術協力を要請してきた。

これを受けてわが国は、1993年10月15～24日まで札幌医科大学近藤潤子保健医療学部長（当時）を団長とする実施協議調査団をエジプトに派遣し、本プロジェクトのR/Dを取りまとめるとともに、1994年4月1日から5年間にわたるプロジェクト方式技術協力を開始することとなった。

また、無償資金協力による看護校舎も1995年2月に完成し、新校舎の施設・機材を有効に活用したプロジェクト活動を展開してきた。

本調査は、1999年3月末にプロジェクト協力期間が終了することから、終了に先立ち国内委員を中心として構成された終了時評価調査団を派遣し、実施内容および実績の評価を行った結果から提言などを導き出し、今後の協力の方向性を定めることを目的としたものである。

1-2 調査団の構成

(団員氏名)	(担当分野)	(所 属)
近藤 潤子	団長 / 総括	天使女子短期大学学長
丸山 知子	看護教育	札幌医科大学保健医療学部教授
照井 洋子	臨床看護	札幌医科大学付属病院看護部長
根間 敦子	図書館管理	日本赤十字看護大学図書館司書
中野 勉	計画評価	国際協力事業団医療協力部医療協力第二課課長代理

1 - 3 調査日程

日順	月日（曜日）	移動および業務
1	10月23日（金）	移動：成田 パリ（JL405）
2	24日（土）	移動：パリ カイロ（AF504）
3	25日（日）	第三国研修「看護リーダー研修」開講式出席 カイロ大学看護学科長表敬 看護学科内施設使用状況視察 JICAエジプト事務所表敬、打合せ
4	26日（月）	カイロ大学学長表敬 カイロ大学医学部長表敬 在エジプト日本大使館表敬
5	27日（火）	カウンターパートとの面談
6	28日（水）	カイロ大学看護学科との協議
7	29日（木）	カイロ大学看護学科との協議、合同評価報告書（案）作成
8	30日（金）	資料整理
9	31日（土）	カイロ大学看護学科長交代式出席 合同評価報告書（案）作成
10	11月1日（日）	合同評価報告書署名
11	2日（月）	移動：カイロ ロンドン（BA154）
12	3日（火）	移動：ロンドン
13	4日（水）	移動：成田（BA005便）

1 - 4 主要面談者

エジプト側

（カイロ大学）

Prof. Dr. Farouk Ismail	総長
Prof. Dr. Mootaz El Sherbiny	医学部長
Prof. Dr. Cheherezade Ghazi	看護学科長
Prof. Dr. Eman Mourad	地域看護教授（前学科長）
Prof. Dr. Nilufer R. Shafik	大学院担当副学科長、図書館長（基礎看護学）
Prof. Dr. Aisha A. El Sayad	学部担当副学科長（看護管理学）
Prof. Dr. Saneya M. Rizk	教育環境担当副学科長（地域看護学）
Prof. Dr. Shadia A. Sharaf	基礎看護、内科外科看護学主任教官

Assistante prof. Dr. Neemat M. Youssef	小児看護学主任教官
A. prof Dr. Yousrai A. El Sayed	母性看護学主任教官
A. prof Dr. Enayat A. Khalil	精神看護学主任教官
A. prof Dr. Laila M. Abdou	看護管理学主任教官
Ms. Mahassen Ashour	事務部長
Ms. Yousria Zaki	図書館司書主任

日本側

(1) 在エジプト日本大使館

三宅 光一	一等書記官
岩井 文男	一等書記官
中野 明久	一等書記官

(2) JICAエジプト事務所

竹内喜久男	所長
不破 雅実	次長
内藤 律子	所員

(3) カイロ大学看護学部プロジェクト

立山 恭子	チーフアドバイザー
白井 克典	調整員
山本 敏子	専門家
長堀智香子	専門家

第 2 章 総括

2 - 1 調査の方針

本調査は1994年4月1日より開始され、1999年3月をもって終了したカイロ大学看護学部プロジェクトの協力終了に先立ち、その成果を次のような方針で評価調査することとした。

- (1) 当初計画に対して、エジプト側および日本側双方の活動実績、目的達成度について評価を行うこと。
- (2) 協力期間終了後の対処方針について非公式に協議すること。
- (3) 評価結果を討議議事録に取りまとめ、双方確認のうえ署名交換すること。

2 - 2 調査の概要

- (1) 本件協力開始時にプロジェクト目標、成果、具体的活動に関して両国の間で整理するためにプロジェクト・デザイン・マトリックス(PDM)が作成され、目標達成度を測定するための指標と指標データ入手手段があわせて示された。

今回の調査にあたっては、カイロ大学看護学部が作成した各種レポートやプロジェクト専門家が作成した定期報告書(専門家が入手した英文資料含む)、あるいはこれまでの計画打合せおよび巡回指導調査団報告書をもとに、あらかじめ目標達成度を把握するための基本的情報の収集を行った。

- (2) 現地においては

- 1) プロジェクトに派遣中の日本人専門家からの活動状況について聞き取り調査
- 2) 看護学部における施設内機材使用状況視察
- 3) 帰国研修員との面談により職務の現況聞き取り調査を実施した。

- (3) 上記(1)、(2)の結果をもとに調査団側で作成した評価報告書(案)を提示し、看護学部幹部と協議を行った。

この協議結果により評価報告書(案)に修正を加え、合同評価報告書を議事録の形に取りまとめ、カイロ大学総長、医学部長、看護学部長と近藤団長の間で署名交換した。

2 - 3 調査結果の要約

2 - 3 - 1 効率性

(1) 5年間投入実績

1) 専門家派遣数	(長期) 7名	(短期) 33名	計40名
2) 研修実績	(個別) 17名	(集団) 6名	計23名
3) 供与機材総額	1億3000万円		
4) 携行機材総額	1576万円		
5) 現地業務費総額	357万6000円		

(2) 本プロジェクトは開始前に、相手側実施機関カウンターパートに目標達成にかかる潜在能力が備わっていると判断したため、長期専門家投入数を抑え、その分を短期専門家で対応する方針とした。また、カウンターパート研修を年間約4～5名受け入れ、日本での経験を生かし、その成果をプロジェクトの運営に反映させることとし、期待どおりの成果が得られた。

(3) 供与機材に関しては、計5000冊の看護図書、各4台の印刷機・コピー機によりそれまでの教材制作技術を旧来のものから一掃し、作業、労力の効率化の成功、教員の教材制作意欲を高めることに貢献した。また、教材内容も充実し学生への教育効果があがった。特に初年度に供与した大型バスは、地域看護実習への移動手段となるばかりでなく、移動中にバスのなかでカンファレンスをするなど。移動教室としても利用され、期待以上の効果があった。

したがって、必要とされた成果に見合った投入実績であったと考える。

2 - 3 - 2 目標達成度

(1) 看護教育方法とカリキュラムが改善される

従来の教育方法に加え、看護教育機材の供与により、学生の自己学習促進がなされた。また、カイロ大学看護学部(HIN)教員らも、現在の教育上の問題点を認識するようになった。

看護教育機材および実習室の整備により、臨床看護教育が改善された。さらに、臨床看護・救急看護に対する重要性が認識されるようになった。

(2) 看護教育にあたる教員が養成される

協力期間中に多くのワークショップを実施した。これらワークショップは、医学・精

神社会学など、他分野の専門家の協力も得ることができ、すべての参加者に対し、看護職・看護像に関する再認識に役立った。

(3) 教育およびトレーニングに活用される教育用メディアが強化される

コンピュータなどの情報関連機器の供与は、情報技術の開発および教育の運営・管理に大きく貢献した。また、若い世代に対しては、看護学探究へのよい動機づけとなった。

日本における研修は、教員らが利用可能な機材を使用しての看護技術を習得し、帰国後、看護教育手法改善に大きく役立った。

日本やエジプトで作成された教育用ビデオテープも看護教育・健康教育に大いに利用され、学習効果を高めた。

しかし、教材作成に関しては、計画・立案の段階から、さらなる改善が必要である。

(4) 看護学部運営技術が向上する

プロジェクト開始当初、供与された機材は日本側が主体的に保守管理にあたっていたが、終了時には、H I N財政により保守管理されるようになった。

看護学部の運営管理技術向上に機材の供与は効果的であった。

(5) 看護実習施設の指導者看護婦の技術能力が向上する

日本での研修は最新の知識と情報を得るよい機会となった。研修の成果は帰国後、講義やワークショップに生かされた。しかし、臨床看護分野および救急看護分野での目標達成は困難であった。すでに、研修を終えた教員らによって、臨床看護教育の改善は検討されている。

(6) 図書館運営管理技術が向上する

プロジェクト開始当初、蔵書数は7000冊しかなく、図書カードの使用など、効率のよい運営がなされていなかった。その後、看護関係の書籍が5000冊供与され、利用者に最新の情報が供給されるようになった。

書籍の供与とともに、図書館運営管理においても、長期専門家派遣および日本での研修を通し、技術協力がなされた。これらの協力において、特に協力期間後半の3年間は、登録・分類・目録・装備・配架などの通常業務が大きく改善され、図書館利用者数は増加した。

2 - 3 - 3 インパクト

(1) プロジェクトの活動を通し、H I Nと地域住民の相互関係は強化された。さまざまな分野の人々がH I Nの活動への参加に関心を抱いた。

さらに、プロジェクトの目標達成を通し、看護教育の重要性の認識が強化したと思われる。

(2) 教材制作・活用方法を向上させる活動のひとつとして、教育メディアである看護図書を充実させ、その結果、図書館利用者数は増加した。本校の図書が他校より充実するに従い、本校教員・学生の利用はもとより、外部の利用者、特にアレキサンドリアを除くカイロ市周辺の看護学科学生などの高利用率がみられた。

(3) プロジェクトの活動が、カイロ大学看護学部だけではなく、他の大学の看護学科生、あるいはエジプトの保健医療分野にすでに従事している人々へ刺激を与え、よりよい看護に対する探究心を呼び起こさせたと考える。また、このような外部利用者と、看護という同じ専門を通し接することは、カイロ大学看護学科生へも刺激となり、向上心を起こさせる動因のひとつとなったと考える。

2 - 3 - 4 妥当性

(1) 1975年ごろの石油ブームのころから、湾岸諸国の経済急成長に伴い、大学卒の看護婦の需要が近隣諸国で高まった。このため、エジプトより優秀な教員と卒業生が湾岸諸国に高い給料で引き抜かれ、国内の看護婦および教員の数・質の低下を招いた。

(2) 一方、1980年代に入り、プライマリーヘルスケアと高度医療の導入および病床数が増加し、レベルの高い看護婦の需要が急激に高まり、エジプトにおいて、大卒看護婦数増加計画が打ち出された。

(3) この目的の実現手段のひとつとして、大学の看護学科と看護短大が増設され、評価の時点での看護婦数はプロジェクト開始当初の約2倍の13万人となった。

(4) その結果、看護教育に携わる教員の数・資質が強化された。

(5) その他の影響として、本プロジェクトの活動・成果により、看護の視点が人間の基本的欲求へと変化した。その結果、看護システムの強化がエジプトの保健政策の一環に組

み込まれるようになった。

- (6) これらを踏まえ、上位目標「看護学部の卒業生がエジプトの保健医療、福祉に貢献する」、プロジェクト目標「看護学部の機能を強化しレベルアップする」は政府の援助政策、受益者のニーズに合致しており、妥当であったと考える。

2 - 3 - 5 自立発展性

- (1) 本プロジェクトのカウンターパートは定着率がかなりよく、一部の研修員は一時的に地方の教育機関や国際的な研究所へ出向している。

彼女らの専門知識・技術はすでに確立しており、プロジェクト終了後も活動の継続は可能であると思われる。

- (2) プロジェクト開始以来の懸案事項であった、H I N の「学部」への正式昇格はプロジェクト協力期間中、政府に承認されなかった。しかし、カイロ大学はH I Nの重要性を認識し、結果としてH I Nは、運営管理・教育的支援活動を独立採算制で行うようになった。

- (3) プロジェクト実施期間中、日本側予算により約30回にわたって開催した看護ワークショップ、セミナー、スタッフトレーニングは、プロジェクト5年目にはカイロ大学看護学部の予算でも実施するようになった。また、看護書籍の購入費も増額されたり、プロジェクト終了後も看護教育強化活動は継続されていくことが予想される。

- (4) 現在、アフリカの看護婦を対象とした第三国研修「看護リーダー研修」の講師として、カイロ大学看護学部教員が有効活用されている。また、パレスチナ人看護婦を対象とした研修をカイロ大学看護学部で実施することも検討されており、今後、エジプト国内および中東、アフリカの中心的看護教育機関として看護教育の推進的役割を担うことが期待できる。

2 - 4 今後の協力

今回の評価調査において、特に相手国関係者からプロジェクト方式での技術協力の継続的实施要望はなされなかったが、特定分野に対する個別専門家派遣、集団・特設研修でのフォロー、あるいは新たな第三国研修実施に向けての実施協力要望が表明されており、JICAエジプト事務所をはじめとした現地関係者による今後の調整が望まれる。

2 - 5 結論および提言

本件プロジェクトの協力はほぼ当初計画に即して実施され、みるべき成果があげられた。

これらの成果は、エジプト側カウンターパートと日本人専門家との一貫した連携協力から生まれたものであり、今後はこの成果を活用したカイロ大学の自立的活動への努力がなされることを期待したい。

評価調査を通じてプロジェクトの成功は確認され、またカイロ大学看護学部の自立発展性に期待したいが、一方でいくつかの面で今後の課題が指摘されており、課題の解決に向けては日本側の協力によりさらに看護学部の発展を促進することになると思われる。

プロジェクト方式技術協力という形態を取らなくても、個別専門家派遣、研修員受入、ビデオを中心とした教材購入への支援、あるいは第三国（個別／集団）研修の実施など、単一のかつ小規模の援助形態を取りながら何らかの協力が継続されることを相手国実施機関も望んでおり、またそうした要望には妥当性もあると判断されるので、調査団としてもこうした協力が続けられるよう JICA エジプト事務所とも協議しており、実現化を期待する。

第3章 プロジェクトの当初計画

3-1 プロジェクト成立の経緯

エジプト政府は、国民の健康保持増進のためにヘルスケアの向上をめざしている。特に医師数に比べ看護婦数は圧倒的に不足しており（1988年、医師数8万人、看護婦数5万人）、看護技術水準は一定のレベルには達していない。

看護婦の教育背景は高等学校看護科卒業者が全体の98.5%を占めている。高等学校卒後の看護婦養成機関は大学の6看護学部と2つのTechnical Health Instituteのみであり、その数と規模は小さい。社会的経済的状況もあり、卒業生の多量輩出はかなりの困難がある。

質の高い看護婦の不足は昨今の高度医療の普及が急進している現状では医療施設運営に支障をきたしている。地域保健サービスの分野においては看護学部の卒業生は皆無に等しい。しかも看護婦の教育環境施設も未整備であり、保健行政上国家的課題となっていて、国家開発計画の重点政策のひとつに掲げられている。

このため、わが国は同国に対し、1978～1983年の看護教育研究プロジェクトおよび1983～1993年のカイロ大学小児病院プロジェクトを通じ看護婦の人材養成協力事業を実施してきた。エジプトはこれらを高く評価し、看護教育指導者の養成を図るために、わが国に対してカイロ大学看護学科を拠点とするプロジェクト方式技術協力と無償資金協力の校舎建設の要請をしてきた。

本要請を受け、わが国は1989年9月にプロジェクト方式技術協力および無償資金協力の合同事前調査団を派遣した。ところが1990年のイラクによるクウェイト侵攻、1991年の湾岸戦争勃発によりプロジェクト形成準備は大幅に遅れ、また無償協力資金にかかわる交換公文（E/N）署名および批准も多大の日時を要したため、校舎建設も遅れ、1992年10月に着工し1995年2月に完成引き渡しが行われた。

技術協力プロジェクトは、校舎完成後すぐに教育活動を活発に実施するために、校舎建設中に技術協力プロジェクトを開始することとなり、わが国は1993年10月実施協議調査団を派遣した。

同調査団は、本プロジェクトに対する技術協力実施の具体的事項について（PCM：プロジェクト・サイクル・マネージメント）エジプト側実施機関と討議した結果、「カイロ大学看護学部に対する技術協力に関する討議議事録（R/D）および暫定実施計画書（TSI）」とPCMを取りまとめ、署名交換し、本プロジェクトに対する技術協力が1994年4月1日から1999年3月31日までの5年間にわたって実施されることになった。

3-2 プロジェクト活動計画

(1) プロジェクトの名称

日本語名：カイロ大学看護学部プロジェクト

英語名：The Project for The High Institute of Nursing, Cairo University

(2) 協力期間：1994年4月1日～1999年3月31日（5カ年）

(3) プロジェクトの目標および概要

1) 上位目標：看護学部の卒業生がエジプトの保健医療、福祉に貢献する。

2) 目 標：看護学部の機能を強化し、レベルアップする。

3) 成 果：① 看護教育方法とカリキュラムが改善される。

② 看護教育にあたる教員が養成される。

③ 教育およびトレーニングに活用される教育用メディアが強化される。

④ 看護学部運営技術が向上する。

⑤ 看護実習施設の指導者看護婦の技術能力が向上する。

以上の目標を達成するために、①～⑤のそれぞれの項目をさらに下記のように活動項目にまで成文化した。

4) 活 動：①-1 年間教授計画を査定し実施結果の評価を行う。

①-2 看護教育研究を行う。

②-1 看護教員および大学院学生の看護理論、実践、教育技術に関する知識を向上させる。

②-2 学内および各専門看護研究室において、研修プログラムを定期的に企画実施する。

②-3 年1～2回程度の看護ワークショップを実施する。

③-1 教育学的メディア、特に教材制作について理解させ、その制作と使用方法を奨励する。

③-2 視聴覚教材の制作、活動方法を奨励する。

④-1 学校管理技術の知識、経験を日本人専門家とエジプト人カウンターパートの間で交換する。

④-2 図書館管理技術を向上させる。

④-3 機材管理技術を向上させる。

⑤-1 実習病院の看護婦長、主任看護婦、スタッフナースとの間で協力関係を樹立させる。

- 2 実習病院の看護婦に対し、患者のケアについて指導助言する。
- 3 実習病院で使用する実習機材を充足する。

(5) 協力計画

看護学部における本プロジェクトの本格的な活動は、1995年2月に完成、引き渡しを終了した総額32億6300万円の無償資金協力による校舎、機材を使用して実施されることになった。そのための準備として校舎完成1年前より、カリキュラムの見直しなど、教育活動全般にわたりアセスメンを実施することとなった。

(6) プロジェクトの管理運営

- 1) カイロ大学総長はプロジェクトの実施と組織に対し、すべての責任を負う。
- 2) カイロ大学看護学科長はプロジェクトの管理、運営について責任を負う。
- 3) 日本人チーフアドバイザーはプロジェクト実施上の技術的、管理的な問題について学科長に対し必要な提言ないし助言を行う。
- 4) 日本人専門家はプロジェクトの実行に対し技術的ガイダンスおよびアドバイスを行うこととする。

3 - 3 相手国実施機関

教育省カイロ大学医学部看護学科 (H I N)

(The High Institute of Nursing, Cairo University)

第4章 プロジェクトの実績

4 - 1 プロジェクトの投入実績

表4 - 1 専門家投入実績
(1994年4月1日～1999年3月31日)

(派遣された長期専門家は7名)

年度	人数		分野
	新規	継続	
1994	2	0	チーフアドバイザー(1)、業務調整員(1)
1995	1	2	図書分野(1)
1996	1	0	図書分野(1)
1997	3	1	チーフアドバイザー(1)、業務調整員(1)、看護分野(1)
1998	0	4	

(派遣された短期専門家は33名)

年度	人数	分野
1994	9	看護分野(7)、図書分野(2)
1995	10	看護分野(6)、図書分野(2)、施設整備(1)、情報処理(1)
1996	8	看護分野(8)
1997	4	看護分野(2)、図書分野(1)、視聴覚分野(1)
1998	2	看護分野(2)

表4 - 2 年度別長期専門家（カッコ内は専門分野）派遣リスト

	1994	1995	1996	1997	1998
1	4/23 立山恭子…………… (チーフアドバイザー)	10/22		4/10 立山恭子…………… (チーフアドバイザー)	4/9
2	4/23 近藤 厚…………… (業務調整)			7/22 8/27 白井克典…………… (業務調整)	4/9
3		9/27 齋藤温子…… (図書館運営)	9/26 10/14 山本敏子…………… (図書館運営)		12/13
4				4/10 長堀智香子…………… (臨床看護)	4/9
5					
	2名	1名	1名	3名	0名

(合計7名)

表4-3 年度別短期専門家（カッコ内は専門分野）派遣リスト

	1994	1995	1996	1997	1998
1	尾崎恵子 (図書館管理)	行武哲郎 (施設設備管理)	立山恭子 (看護教育)	高田貴美子 (臨床看護)	近藤潤子 (母性看護学)
2	神戸恵子 (図書館管理)	齋藤温子 (図書館運営)	千葉かをる (母性看護・臨床看護)	中島久美子 (臨床看護)	村上睦子 (看護教育学)
3	近藤潤子 (看護教育)	大柳俊夫 (情報管理)	松谷涼子 (母性看護・臨床看護)	福間正浩 (視聴覚教育)	
4	若山登美子 (成人看護)	中山純一 (図書館運営)	近藤潤子 (看護教育)	大前好子 (図書館運営)	
5	佐々木純子 (小児看護)	仲里幸子 (チーフアドバイザー・ 地域看護)	照井洋子 (看護管理)		
6	近藤潤子 (母性看護)	近藤潤子 (母性看護)	小関三千代 (地域看護)		
7	深沢華子 (公衆衛生看護)	佐藤登美 (成人看護)	八代紀子 (地域看護)		
8	石塚百合子 (小児看護)	白井佐江子 (臨床看護)	羽山由美子 (精神科看護)		
9	横手芳江 (成人看護)	高橋みどり (臨床看護)			
10		羽山由美子 (精神科看護)			
	9名	10名	8名	4名	2名

(合計33名)

研修科目および年度研修実績は以下のとおりである。

表 4 - 4 日本（カウンターパート）研修実績表

研修科目	1994	1995	1996	1997	1998	合計
看護教育	2 (1名は準高級)		2			4
図書館管理	1					1
看護管理学（救急）		1		1		2
地域看護学		1	1			2
基礎看護学		1				1
内科外科看護学		1		1		2
小児看護学				1	1	2
母性看護学			1		1	2
精神看護学					1	1
合計	3	4	4	3	3	17

表 4 - 5 日本（集団）研修実績表

研修科目	1994	1995	1996	1997	1998	合計
視聴覚教材制作	1					1
公衆衛生	1	1				2
コンピューターインストラクター		1				1
近代農村医療変革		1				1
臨床看護					1	1
合計	2	3	0	0	1	6

表4 - 6 研修参加者名簿

年度	氏名	職位	生年月日	分類	分野(コース名)	研修開始	研修終了
94	DR. EMAN MOTAFI MOURAD	教授・学科長	1938年1月14日	C/P	看護学	1994年10月23日	1994年11月19日
	DR. AISHA AWAD EL SAYED	教授・副学科長	1948年5月24日	C/P	看護学	1994年10月23日	1994年11月19日
	DR. YASMIN AHAMED EL FOULY	講師	1954年5月17日	C/P	図書館運営	1994年10月27日	1995年1月28日
	DR. ZEINAB ABDEL HALEEN	助手	1960年10月24日	集団	ビデオ製作	1994年8月25日	1994年12月22日
	DR. HEDEYA ABDEL AZIZ	講師	1948年4月9日	集団	公衆衛生教育	1995年1月10日	1995年1月29日
95	DR. SUZAN ATTLA ABEDEL SAYED	教授	1947年5月11日	集団	農村近代化過程の健康障害対策セミナー	1995年10月2日	1995年12月4日
	MS. HELALIA SHALABY MOHAMED	インストラクター	不明	集団	情報処理要員養成(PC専任インストラクター)	1995年10月5日	1996年3月22日
	DR. SANEYA MOHAMED RIZK EL BANNA	助教授	1949年12月10日	集団	公衆衛生教育	1996年1月9日	1996年1月28日
	DR. AMAL FAKHR Y GARAS	助教授	1950年4月1日	C/P	成人看護	1995年7月4日	1995年8月23日
	DR. EGLAL AHMED ABDEL WAHAB	講師	1951年3月4日	C/P	看護管理	1995年7月4日	1995年11月1日
	DR. LABIBA ABDEL KADER MOHAMED	講師	1959年5月10日	C/P	基礎看護	1995年7月4日	1996年3月6日
	DR. SOHEIR ALY ABDER BADREEL DIN	講師	1946年3月9日	C/P	地域看護	1995年7月4日	1996年3月6日
96	DR. SAMIRA IBRAHIM MOSTAFA EL SHARKWY	教授・副学科長	1947年11月14日	C/P	看護教育・研究	1996年6月3日	1996年7月21日
	DR. BASSMAT OMAR AHMED OMER	助教授	1951年12月24日	C/P	看護教育・研究	1996年6月3日	1996年7月21日
	DR. EFFAT MOHAMED ABD EL HADY EL KARMALAWY	講師	1956年2月15日	C/P	公衆衛生看護	1996年6月3日	1996年9月14日
	MS. ABEER SAAD ZAGHLOUL MOHAMED ASWI	インストラクター	1967年8月1日	C/P	母性看護	1996年6月3日	1996年9月14日
97	DR. MOHGA A. EL. AZIZ	助教授	1956年8月1日	C/P	内科外科看護	1997年7月9日	1997年8月15日
	DR. MAGDA A. EL MOLLA	講師	1954年5月19日	C/P	看護管理	1997年7月9日	1997年8月15日
	MRS. HALA A. EL MONEN	インストラクター	1969年2月9日	C/P	小児看護	1997年7月9日	1997年9月28日
98	MS. NEHAD HELMY MOHAMED	助手	1969年10月11日	C/P	精神看護	1998年8月24日	1998年9月24日
	MS. SOHEIR A. RABOUR	インストラクター	1968年3月17日	C/P	小児看護	1998年8月24日	1998年10月13日
	MS. NADIA BASYORI	インストラクター	1968年3月17日	C/P	母性看護	1998年8月24日	1998年10月13日
	MS. HANAN EL KAFIFY HASSAN	アシスタントレクチャー	不明	集団	臨床看護	1998年7月23日	1999年1月25日

(注) C/P : カウンターパート

表4-7 各年度供与機材リスト

(供与機材費：5年間で1億3000万円)

年度	実績		内 容
1994 (平成6年)	L.E.	465,200.35	大型バス(2台)、ジープ(1台)、看護書籍(168冊)
	USドル	77,832.00	コンピューター+プリンター(7台)、コピー機(3台)
	円	0.00	
1995 (平成7年)	L.E.	433,500.00	ジープ(1台)、コピー機(1台)、オートクレーブ(2台)、スライドプロジェクター(7台)、看護機材 [Exam. Table(1), Suction Machine(5), Auto Spygmonometer(70), Aneroid Spyg.(70), Stethoscope (70), Weight-scale(10)]
	USドル	58,500.00	OHP(7台)、TV/VTR(14台)、ダイレクトプロジェクター (2台)
	円	9,138,042	看護機材 [Infant warmer(3), Blood prssure(2), Fe- tal actocardiograph(1), Suction pump(4), Infution pump (2), Syringe pump(1), Model dall(24), Simulator(7)]
1996 (平成8年)	L.E.	136,110.00	コンピューター(10台)、プリンター(6台)
	USドル	21,670.00	ビデオプロジェクター(1台)
	円	18,178,480	看護書籍(458冊)、顕微鏡(5台)、カメラ(10台)、看 護教材 [Nursing bed(2), Air mat(2), Childbirth phan- tom(2), Breast mode(15), Breast cancer palpation (5), Baby simulator(5), Body simulator(5), Weight scale(3), Haemoglobin Meter(5), Fetal doppler(3), Reproductive health education(5)]
1997 (平成9年)	L.E.	457,774.00	看護書籍(1894冊)、印刷機(4台)
	USドル	0.00	
	円	991,536	乳児用体重計(200個)
1998 (平成10年)	L.E.	289,092.00	看護書籍(1356冊)
	USドル	0.00	
	円	8,623,133	保健婦靴キット(200個)

(注) L.E. : エジプト・ポンド

表 4 - 8 各年度携行機材リスト

(携行機材費：5年間で1576万円)

年度	実績		内 容
1994	L.E.	46,050.00	携帯用マイクロフォン装置、コンピューター(1台)、 プリンター(6台)
	USドル	5,848.00	オートクレーブ(1台)
	円	2,299,992.00	タイプライター(1台)、コンピューター(1台)、看 護機材、看護書籍(21冊)
1995	L.E.	35,365.41	コンピューター(2台)、ブックエンド(1000)
	USドル	0.00	
	円	2,413,400.00	ビデオカメラ(1台)、看護書籍(201冊)
1996	L.E.	24,400.00	煮沸機設置
	USドル	0.00	
	円	1,940,482.00	書籍運搬台車(2台)、看護機材、看護書籍(144冊)
1997	L.E.	7,293.00	看護書籍(27冊)
	USドル	0.00	
	円	2,597,589.00	看護機材、コンピューター(1台)、看護書籍(81冊)
1998	L.E.	38,280.00	看護教材ビデオ(29本)
	USドル	0.00	
	円	537,320	看護教材、看護書籍(25冊)

表 4 - 9 各年度現地業務費

(現地業務費 : 5 年間で 357 万 6000 円)

年度	現地業務費	実績		用 途
1994	一般 現地業務費	L.E.	177,926.80	プロジェクト運営に必要な経費を整理した。 教科カリキュラム見直しに関するワークショップ (2 回) を実施した。 コンピュータトレーニング (7 回) を実施した。
1995	一般 現地業務費	L.E.	230,494.19	プロジェクト運営に必要な経費を整理した。 教科カリキュラム見直しに関するワークショップ (1 回) を実施した。 看護科教員に対してワークショップ (2 回) を実施 した。
	技術交換費	USドル	11,230.00	トルコ国人口教育促進 () プロジェクト専門家 1 名、カウンターパート 4 名が 6 泊 7 日の日程で技術 交換を目的に訪問した。
1996	一般 現地業務費	L.E.	197,885.16	プロジェクト運営に必要な経費を整理した。 看護科教員に対してワークショップ (3 回) を実施 した。
1997	一般 現地業務費	L.E.	150,756.00	プロジェクト運営に必要な経費を整理した。 看護科教員に対してワークショップ (7 回) を実施 した。 視聴覚室職員に対してワークショップを実施した。 図書館司書に対してワークショップを実施した。
1998	一般 現地業務費	L.E.	(130,560.00)	プロジェクト運営に必要な経費を整理している。
	啓蒙普及 活動費	L.E.	(104,640.00)	看護科教員に対してワークショップ (9 回) を実施 している。 看護学部学生に対して地域看護調査の手法を教え、 また障害者に関する調査を実施している。

4 - 2 プロジェクトの活動実績

〔 囲みの項目番号は第3章3 - 2 - (3) - 4)による〕

- 1 : 教授計画を査定し実施結果の評価を行う。

各教科別に実施されていたが、1997年からは年間教授計画の実施結果の評価が全教員と学年別に選出された学生が参加し公開の場で発表と検討が行われるようになった。

- 2 : 看護教育研究を行う。

年間平均して3～4件のリサーチをカイロ大学、科学アカデミー、その他の科学研究費を申請のうえ獲得し実施している。1998年度のそのうちの1件はJICAの啓蒙費を使用し地域看護実習地区の障害児の調査を実施した。

- 1 : 看護教員および大学院学生の看護理論、実践、教育技術に関する知識を向上させる。

看護専門家の指導および日本における研修によって研修員のみならず、公式、非公式の伝達講習によっても、他の教員に伝えられている。

- 2 : 学内および各専門看護研究室において、研修プログラムを定期的に企画実施する。

年1～2回の研修会を実施した(資料5参照)。

- 3 : 年1～2回の看護ワークショップを実施する。

2年目からは各教科で実施した。

- 1 : 教育メディア、特に教材制作について理解させ、その制作と使用方法を奨励する。

- 2 : 視聴覚教育の制作、活動を奨励する。

プロジェクト1年目に精神看護の講師(Dr. Zeinab)が「ビデオ制作集団研修」に参加し、帰国後はカイロ大学の視聴覚センターにおいて、各教科の助手を数人ずつ訓練し、視聴覚教材制作を開始した。現在、教員は各自、授業、演習に必要な教材を自分で作成している。また供与したビデオ教材はフルに活用している。

- 1 : 学校管理技術の知識、経験を日本人専門家とエジプト人カウンターパートの間で交換する。

この項目に関しては、国立大学の基準が日本とエジプトではかなり違うので日本の管理方法の紹介にとどまった。

- 2 : 図書館管理技術を向上させる。

長期司書専門家を3年2カ月にわたり投入し、司書の技術向上を図り、かなりの目的達成をみた。図書管理にはラベル、糊、メンテナンステープといった細かい資材が必要であるが十分な補充がなされていなかった。年度末に次年度使用分を申請することなどを指導することにより、徐々に必要な事務用消耗品不足の問題が解決

されつつある。

- 3 : 機材管理技術を向上させる。

校舎、教育機材が無償供与され多数の機材があるため、定期的なイベントリーが義務づけられ実行されている。実習室、演習室、視聴覚室、解剖模型室には実習助手が採用され機材管理をしている。

施設設備のメンテナンス点検は、短期専門家から指導を受けたエンジニアとテクニシャンが定期点検と修理を実施している。

- 1 : 実習病院の看護婦長、主任看護婦、スタッフナースとの間で協力関係を樹立する。

各教科の実習に際し、臨床指導の教員の責任者が実習について婦長と連絡を密に取るようになってきた。特にICUなど当学科卒業生の婦長が勤務している病棟と教員との関係がよい。この1～2年は病棟勤務者の修士課程入学が増えており、病棟の看護状況も一部徐々に改善されてきている。

- 2 : 実習病院の看護婦に対し、患者のケアについて指導、助言する。

一部の教科ではオン・ザ・ジョブ・トレーニング(OJT)とあわせ、看護婦に対しプログラムを作成し、実習室を使い研修会を実施している。

- 3 : 実習病院で使用する実習機材を充足する。

実習病院の機材を学生が使用することは、その数量が少ないために制限を受けている。実習には学部から消耗品医療材料を持参するが、実習機材を病棟に充足することは、保管責任が病棟か学部か、どちらになるかという問題が起こり、検討の余地を残している。

将来的には病院側に機材の補充がなされると考えられ、解決されていくであろう。

第5章 プロジェクトの評価

5 - 1 プロジェクトの成果達成状況

5 - 1 - 1 プロジェクト成果項目(1) - 評価団員：丸山知子

(1) 評価内容：プロジェクトの成果項目〔 囲みの項目番号は第3章3 - 2 - (3) - 3)による〕

看護教育方法とカリキュラムが改善される。

看護教育にあたる教員が養成される。

(2) 委 員：看護教育 丸山知子

(3) 評価方法：施設見学、インタビュー

インタビューは1998.10.27(火)下記のとおり実施

9:10~9:35 Dr.Magda A. Elmolla (Nursing Administration. Lecturer)

9:40~10:10 Dr.Eglal Ahmed Abd El Wahab (Nursing Administration. Lecturer)

10:10~10:40 Dr.Yasmin Ahamed El Fouly (Library. Lecturer)

10:40~11:00 Dr.Soheir Aly Abder Badre El Din (Community Nursing. Lecturer)

(4) 成 果： 教育方法に関しては、OHPやコンピューターおよび各領域に対する
供与機材を活用し教材作成を行っている。学部学生や大学院学生も積極
的に機材などを活用し、実習のためのパンフレットを作成したり、学習
効果を高めている。

カリキュラムの改正に向けてワークショップを実施、新カリキュラム
を作成しているが、現段階では学科組織との関連でまだ実施に至ってい
ない。

しかし、内容の部分改正などは日本のカリキュラムを参考にしながら、
各領域で工夫している。

(合同評価報告書、p.47)

看護教員の状況では、教授、助教授、講師らの人数の変動はなく、安定した状態にある。教員の質を維持するために、積極的に各領域での研修会、および年に1、2回のワークショップを実施し、その結果各教員の反応は大変役立っていると評価している。

しかし、今後助手や実習インストラクターレベルの教員についての研修機会がいっそう必要であると考え（合同評価報告書）。

以上より、看護教育カリキュラムや教育方法については、大変積極的に検討や研修を行っており、供与機材や研修成果が十分に生かされていると考える。

教員の養成に関しては、博士課程進学希望者も多く、将来的には問題ないと考える。また、理論と実践の接点については、上記に示したように、助手やインストラクターの若い教員にもっと研修機会を与え、臨床と教育の一貫性を理解する必要があると考える。

5 - 1 - 2 プロジェクト成果項目(2) - 評価団員：根間敦子

〔 囲みの項目番号は、第3章3 - 2 - (3)による〕

(1) プロジェクト成果項目

教育およびトレーニングに活用される教育用メディアが強化される。
看護学部運営が強化される。

(2) プロジェクト活動

- 3 図書を充実させる。
- 2 図書館管理技術を習得させる。

* カイロ大学看護学部からの希望内容

- ・ 図書の充実
- ・ 業務の合理化
- ・ 奉仕内容の充実

* 図書館管理運営にかかる技術協力の具体的指導内容

- ・ 図書管内整備
- ・ 図書等整理業務、奉仕業務の基礎的技術
- ・ 図書館活動の策定
- ・ 図書館の専門職意識の向上

1 管理運営組織

(1) 図書委員会

図書館長（修士・博士課程学科長代理）、図書委員（内科外科基礎看護学科・母子看護学科・小児看護学科・公衆衛生看護学科・精神看護学科・看護管理学科から各1名）、主任司書、JICA長期専門家の計9名で構成される。

毎月1回（第1火曜日）委員会が開催され、図書館運営全般に関する討議が行われている。

(2) 図書館職員

構成

主任司書1名、司書6名（98年10月現在2名長期休暇中）、セクレタリー1名：計8名（2交替制勤務）

*他に、図書館利用者が依頼したコピーを専門にとる職員（大学のセクレタリー）1名

業務

1994年4月当初は司書9名2交替制で図書館業務を行っており、係体制はなかった。専門家指導により業務組織化と責任体制が図られ作業の流れが順調になってきている。

主任司書：図書館管理

司書（1）：貸出管理

（2）：学位論文管理（収集・登録・目録作成）、図書目録作成

（3）：雑誌管理

（4）：貸出管理

（5）：（3カ月休暇中）

（6）：（1年休暇中）

セクレタリー：目録カードタイピング

・主任司書以下全員で、毎朝各自の担当書架の整理と配架を行う。

・カウンターでの貸出業務は交替で全員が行う。利用者の多い時間帯を考慮して、業務シフトを変更中。

会議

- ・ H I N 図書館内でのミーティング：毎月 1 回（最終木曜日）に 1 時間～ 1 時間30分ほど。
専門家指導により図書館員会議を定例化し、利用者の要望の検討、館員の意見の調整などを行っている。
- ・ 副学長とカイロ大学全図書館の館長・図書館業務責任者によるミーティングが 3 カ月～ 6 カ月ごとに参加者約 20～ 30 名で行われている。

出張・研修

- ・ 短期専門家派遣時に図書館セミナーを開催し、専門意識の向上を促した。
- ・ アメリカンセンター図書館・British Council図書館・カイロ大学医学部図書館などの見学を実施し、閲覧カードの作成や図書貸出方法について見直しを行った。
- ・ カイロ大学中央図書館での図書館業務やコンピューターに関する研修に参加している。

2 施設・設備

(1) スペース・配置図

総面積：512m²

配置図（図4 - 1）

(2) 閲覧席

96席：6人掛けテーブル16台、個人机なし。

利用者の多い時間帯には席数が足りなくなる様子で、調査時（午後3時ごろ）にも1脚の椅子に2名で腰掛けているなどの状況がみられた。

(3) 書架

すべての開架書架。まだ余裕があるが、将来蔵書が増えた場合は天井の高さを利用して中2階の書庫を設置することも考えられる。

(4) 事務室

事務室とする予定で仕切られた4 m²のスペースは現在コピー室となっている。カウンターの内側が事務室ということになるが、非常に窮屈そうで作業を能率的に行える状況とはいえない。整理中の資料の一時保管場所、図書台帳・委員会議事録・図書館活動のための参考資料などを機能的に整理・保管するスペースや家具も必要である。

(5) 機器・家具等

- ・コピー機（2台）：1台は職員用、1台は利用者用（コピー作業は担当職員が行う）
- ・パソコン（2台）
- ・英文タイプライター（1台）
- ・ブックトラック（11台）
- ・電気ドリル（目録カードの穴あけに使用）（1台）
- ・ラミネート器具（1台）
- ・目録カードボックス

現在の所蔵冊数では容量には相当の余裕がある。ボックスと目録用既製カードのサイズが合わなかったため、カードの端を切って収納している。

- ・1995年6月の報告書によればスタンドアロン型CD-ROMの設置が考慮されるべきとあるが、実現されていない。

- ・現在ファックスはないが、図書館間相互協力による迅速なサービスや情報収集のためには導入を検討していく必要がある。
- ・床に毛足の長い絨毯が敷き詰めてあるためブックトラックの車輪がなかなか動かず、苦労している模様。
- ・書架見出し・図書分類表・資料配置図・館内見取図などのサイン配置が専門家によって提案され、現在作成中である。

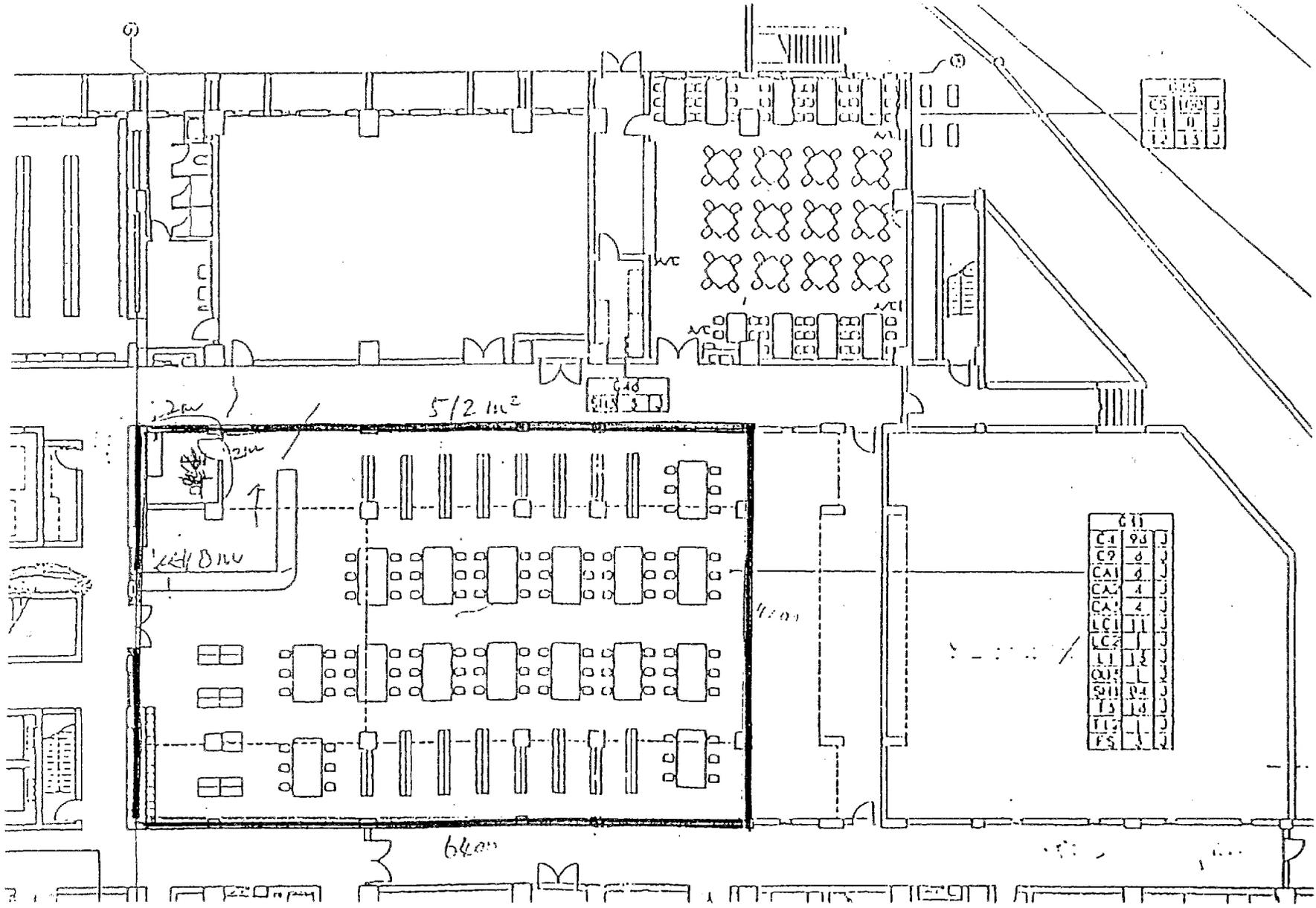


図4-1 図書館内の配置図

3 資料の整備

(1) 図書（英語図書のみ。アラビア語の図書も100冊程度所蔵しているが統計外）

所蔵冊数

1994年6月	1995年11月	1996年8月	1997年5月	1997年11月	1998年10月
7,000	7,000	7,707	9,000	9,294	14,000

基本図書の整備状況

分野	必要冊数	所蔵冊数		
		1997年4月	1997年5月	1998年10月
基礎看護	1,400	750		
内科外科看護	2,050	1,150		
産科看護	1,400	500		
小児看護	1,400	450	7,380	12,380
看護管理	1,400	580		
精神看護	1,400	430		
公衆衛生看護	1,400	500		
一般	1,410	710		
教育	620	420	1,620	1,620
研究	209	0		
計	15,000	8,301	9,000	14,000

図書出版年代別所蔵冊数		
図書出版年代	'97/5	'98/10
1960年代	2,800	2,800
1970年代	1,840	1,840
1980年代	2,900	2,900
1990年代	1,460	6,460
計	9,000	14,000

* 必要冊数：1997年4月15日にH I N側から出された寄贈要請書より

J I C Aより看護学図書が5000冊寄贈され、J I C A機材供与費で購入されたものを加えると相当数（1万2000冊以上）を誇っているが、当初目的の1万5000冊には達しておらず、引き続き書籍・ビデオ教材の購入を必要としている。

短期間に大量の図書を受け入れているにもかかわらず、図書の納品から配架までを約7日～10日で行っており、スタッフの大変な努力が感じられる。

資料の選定・受入れ

今回のプロジェクトにおける寄贈図書は、専門家斎藤氏が携行した「BOOKS IN PRINT」CD-ROMの看護学部門から選定した。カイロ大学予算分では、ブックフェアなどで現物を見て購入している。カイロ市内の書店から看護学専門書の情報を得ることは難しく、なかなか選書や購入の手段が見つからないようである。

登録

登録番号・登録日・著者名・書名・発行所名・刊行年・形態などの図書台帳への記入が専門家の指導によって確実に行われるようになった。

登録作業は担当者を決めず全員の協力という形をとっている。

分類

登録を行った者が分類も行うことになっている。

分類表は、米国National League for Nursing「The Bellevue Classification System for Nursing School Libraries」を使用。1965年出版の分類表で、これをそのまま使用していくとすると、看護や医学の分野では変化に追いつかず分類に困ることも少なくない。定期的に改訂が行われるような分類を採用して変更するか、または現行のものを独自展開していくか、はっきりした方針を早めに検討しておいたほうがよい。

目録

旧図書館で使用していた目録カードを移転時に紛失。新図書館移転後、新規受入分とあわせ全所蔵図書について書名・著者名・件名の3種類の目録カードを作成した。カードの適正な排列についても指導が行われ、ほとんど問題なく整理ができている。カードボックスと市販のカードのサイズが合わずカードのサイドを切って収納しているため、閲覧の際、スムーズに動かないことがあるのが残念である。

装備

図書ラベルは、白色（貸出可図書用）と緑色（貸出不可図書用）の紙を鋏で切って作成し、請求記号を手書きしている。ラベルの色によって貸出ができるかどうか誰にでもひと目で識別できる。しかしながらラベルの記号の書き方や図書への貼付の仕方は丁寧ではなく、請求記号をたどって図書を探すのは楽ではなさそうであった。少しの工夫で見やすくなり、書架整理も効率的に行えると思われたが、H I N図書館では不便はないとのことである。

1994年の協力開始当時は、古い資料が大量に劣化したままになっていたが、専門家の技術移転により、自館において簡易な修理が行えるようになった。また製本業者への依頼についての指導もされた。

配架

専門家の指導で書架ごとに担当者を決め、毎朝書架整理を行っている。しかし利用率が大変に高いため書架は非常に乱れている。

(2) 雑誌

所蔵タイトル

1994年プロジェクト活動開始時より19種類。1998年10月現在変化なし。

所蔵雑誌（すべて看護分野）

- 1 . American Journal of Nursing
- 2 . American Journal of Public Health
- 3 . AORN Journal
- 4 . Canada's Mental Health
- 5 . Canadian Nurse/L'Infirmière Canadienne
- 6 . Intensive Care Medicine
- 7 . International Journal of Nursing Studies
- 8 . Journal of Advanced Nursing
- 9 . Journal of Continuing Education in Nursing
- 10 . Journal of Nursing Administration
- 11 . Journal of Psychosocial Nursing and Mental Health
- 12 . Maternal and Child Health; The Journal of Family Medicine
- 13 . Midwifery
- 14 . Nursing Clinics of North America
- 15 . Nursing Outlook
- 16 . Nursing Research
- 17 . Nursing Times/Nursing Millor
- 18 . Promotion and Education
- 19 . Psychiatric Services (formerly : Hospital and Community Psychiatry)

受入

受入雑誌の種類については、委員会からも臨床の雑誌を増やしたいとの要望が出ているが、現在の受入事情からみて簡単にできることではなさそうである。

カイロ大学図書館全体の予算で一括購入し、H I N図書館へ寄贈という形式で受け入れているため、雑誌が発行された順に1号ずつ届くことはほとんどない。たとえば1～6月号をカイロ大学がまとめて発注・購入しH I N図書館側がそれを受け取りに行く。

プロジェクトでは継続性のある雑誌の購入にタッチすることはできないが、H I N図書館独自の雑誌入手方法を考慮することが望ましい。

装備

製本状況：1985～1996年分製本済み（製本業者に依託）

配架

ひとつのテーブルを囲むように雑誌架が配されて雑誌閲覧コーナーとなっており、使いやすい。

受入タイトルが少ないため雑誌架は非常に余裕がある。製本済みバックナンバーの書架の乱れから、利用の多さが察せられた。

(3) その他

- ・学位論文：修士論文125、博士論文75（現在目録作成中）

散逸していたものを収集し、専門家によって目録作成の指導がされた。大学においては大変貴重な資料である学位論文の収集・整理ができ、非常に意義のある技術協力と評価できる。

- ・WHO刊行物：以前は受け入れていたが、会費支払いが不可能で受入中止となった。ただし、WHO図書館がアレキサンドリアにあるので、いずれはインターネット上での閲覧や文献複写が可能になると見込んでいる。

4 利用者サービス

(1) 開館時間(原則として)

土曜日～水曜日	9:00～17:00
木曜日	9:00～14:00
金曜日	休館
ラマダン期間中	9:00～12:00
夏期・冬期休暇中	9:00～14:00(蔵書点検期間中は休館)

(2) 開館日数・利用者数(閲覧利用者記帳簿による。図書返却のための入館者は統計外)

1995 - 1996年度

開館日数 : 統計なし

年間利用者数 : 学生約4000名、教員約2800名

1996 - 1997年度

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
開館日数					25	20	25	20	15	10	0	0	115
利用者数					72	445	1744	1039	735	28	* 6	0	4069
1日平均					3	22	70	52	49	3	0	0	年平均35

* 特別に許可を得て入館したものとされるが、その月の閉館日数が0のため1日平均入館者数も0とした。

1997 - 1998年度

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
開館日数	10	25	25	25	20	20	25	20	15	10	0	0	195
利用者数	701	1483	985	1485	310	1247	2768	1519	1118	85	0	0	11701
1日平均	70	59	39	59	16	62	111	76	75	9	0	0	年平均60

* 年間利用者のうちH I N学生5500名・教員3500名との統計があるので学外利用者は2701名となる。

1998 - 1999年度

9月 : 閉館日数10日・利用者数742名・1日平均利用者数74名

10月 : 1日平均利用者数(推定)150～200名

図書館員へのインタビューによれば、H I N図書館は現在カイロ大学で最も利用されている図書館である。特に最近の1日平均利用者の急増ぶりは著しい。学生（在籍者）数の増加もあるが資料の充実や管理面の改善によって利用が促進されたものと考えられる。学外利用者の多さがこれを示しているといえるのではないか。

(3) 貸出

貸出規定

辞書・参考図書・雑誌・学位論文・貴重書・地図・年鑑などの指定図書を除いて、同一の図書が2冊以上ある場合のみ（1冊は館内閲覧専用として常時図書館内に保管し）複本の貸出を認めている。紛失の際の弁償については大変細かく規定されている。

学部学生は1人1冊まで、大学院生2冊まで、教員3冊まで、2日間貸出可能。利用者は、貸出を希望する図書のタイトル・学籍番号・氏名などを申込券に記入してカウンターに提出し、図書館で半券を保管するという形式で貸出を行っている。照合などに時間がかかるのか、混む時間帯にはカウンターに20人ほどの行列ができていた。カウンター業務シフトの変更は計画されているが、貸出・返却方法にも改善の余地があるように思われた。

1日平均貸出冊数

1997年5月 30～40冊

1998年10月 50～70冊

利用者別貸出状況

1995 - 96年度 学生3900冊 教員2000冊

1997 - 98年度 学生4500冊 教員3000冊

1・2年生は看護学、3年生は小児医学・産科学、4年生は社会学・衛生学・内科学の利用が多い。

(4) 参考業務

現状ではタイトルや主題から図書の所在を質問される程度で、文献入手の相談などはない。

ただし、専門家指導によりレファレンスサービスに対する意識が高まっている。インタビューでも、以前よりも少ない職員数で新図書館整備やさまざまな改革を行わなけれ

ばならないために利用者への対応に時間がとれないとの説明があり、問題意識を持っている様子がかがえた。

(5) 複写利用状況

統計はないが、かなりの利用がある。大学のセクレタリーがコピー業務を代行。1枚につき10ピアストルの複写料を徴収している。これは市内のコピー店(4ピアストル程度)に比べて相当高いので貸出可能な資料については館外でコピーされることが多い。

(6) 利用案内

Dr.ヤスミンにより作成された、アラビア語の写真入り利用案内がある。

(7) 新着雑誌コンテンツサービス

専門家の指導により、新着雑誌の目次を受入の都度コピーして雑誌別にクリアファイルに入れ、閲覧に供するようになった。利用者にも評判がよく、頻繁に利用されているとのことである。

(8) 図書館間相互利用

カイロ大学の指導教員らからH I N図書館に看護学図書が大量に受入されたとの情報を得て、研究者・教員・助手・他大学の4年生などが、遠方からも利用にやってくるようになった。

H I N図書館をエジプト内で最も看護学資料の充実した図書館として広く役立ててもらおう一方、学内の利用者のために自館に不足している資料をどのように入手し提供していくか研究する必要がある。

他館との協力で文献複写の取り寄せや現物貸借のサービスが活発に行われれば、エジプトの看護学研究に大きく貢献できる。他館の図書館員との交流・情報交換を積極的に行い、早急にシステムを整えることが望まれる。

5 - 1 - 3 プロジェクト成果項目 (3) - 評価団員：照井洋子

〔項目番号は第3章3 - 2 - (3) による〕

< プロジェクト成果項目 >

看護実習施設の指導者看護婦の技術能力が向上する

- 1 実習病院の看護婦長、主任看護婦、スタッフナースとの間で協力関係を樹立させることについて

・札幌医大病院における看護部の組織、婦長・副婦長・チームリーダーの役割や臨床実習指導者の役割などについては、日本に研修にきた教員はオリエンテーションと実際の役割分担の実践を見、効率的・組織的に運営されていると評価をしている。

・実際に「看護管理学」を担当している教員は、帰国後、インターンに対する指導マニュアルを英語とアラビア語の両方で書いた冊子を作り、学生と臨床で使えるようにし活用していた。

今まではオリエンテーションなど、口頭でしており十分理解されないことが、資料としてあることで、いつでも繰り返し見ることができ、有効に活用されている。

・看護課程についても、看護計画の用紙を札幌医大のフォーマットを利用して、記録の記載例が書いてあり、誰でも応用できるようになっていた。

・それぞれの役割と責任なども記載されており、共通理解の必要性を理解されていたように思う。

・よい実習をするには、臨床との協力関係が必要であり、教員が積極的に看護婦長との話し合いの機会を持つようにしているとしているということであり、こうした話し合いをすることが臨床の看護の向上につながっていくこと期待している。

・カイロ大学病院では、主任看護婦制度は取られておらず、看護婦長も物品管理に主眼が置かれ、臨床看護の質の向上に対する意識改革はこれからで、今まで以上に大学の教員による指導・リーダーシップが期待される場所である。

・臨床指導者に対する考えも、大学も出ていない臨床の看護婦にはできないといていたのが、最近は臨床の看護婦を育てていきたいと変化してきている。

・卒後教育に対する計画も、年間計画などは立っておらず、その都度という状況で、札幌医大での教育委員による年間の教育研修計画や卒後6年目までの達成目標などを、これから参考にしていきたいと、卒後教育の重要性を語っており、長い目で人を育てる重要性を理解された。

・婦長たちによる委員会活動会にも注目され、特に教育委員会や感染防止委員会・記録手順委員会など参考にしていきたいとっている。

・看護の質の向上のためには、実際に看護管理をされている看護婦長の看護に対する

理念や方針が重要であり、この人たちの研修がこれからより重要と思われる。

- ・看護における情報システムについても、具体的にどう活用されているか、学んでいる。
 - ・インターンによるヘッドナースは同レベルであり、病棟運営は秩序が保たれていないように感じた。また声かけをしながら処置や看護をしている姿はあまり見かけなかったが、看護婦として相手を尊重したかわりを大事にしたい。
- 2 実習病院の看護婦に対し、看護ケアについて指導・助言するということについて
- ・短期専門家として派遣された看護婦は、それぞれの分野で日常生活のケアや人工呼吸器装着患者の看護や頭部外傷患者の看護などを、インターンの学生に実際に指導する機会はあったが、看護婦に対してあまりそういう機会はなかった。それは言葉が英語ではないということで積極的でなかったようだ。
 - ・医療機材がないからといって、酸素も5000リットルのボンベから直接引いていたことも、どうあるのが望ましいかを話したら、学生は飲料水のプラスチックボトルの口に穴をあけ、点滴チューブを2本通して活用するなど、今までは物がなくて済ませていたことが、必要性が理解できると応用していくことができるようになった。
 - ・外傷の患者が血液で手や足が汚れていてもあまり関心ないようであるが、ハエがとまるなど不潔なので清拭の必要性を指導しても、あまり清潔に対する関心は薄いようであるが、生活文化の違いもあり難しい点でもある。
 - ・特に救急の外傷患者は、家族にとっても突然のことであり、不安でいろいろ質問してくることにに対して、インターンはひと言葉だけを交わすだけで、納得できるようにかわるのではなく、「ハラス」とまだ不安な表情がみえるのに話を切ってしまう場面がみられ、家族の表情は不安気であり、心のケアをしているようには見えなかった。家族に対する配慮も看護婦の役割であり、個々の看護婦が責任を自覚する必要性を感じる。
 - ・清潔に対して年々年よくなっているように感じるが、医療現場で働く者として手洗いの励行をはじめとして、一連の行為のなかでも一部は清潔にし、一部はそのままというように、一貫した清潔に対する教育はまだ不十分のようである。たとえば消毒された器具を素手でつかむなどの場面がみられた。
- 3 実習病院で使用する実習機材を充足することについて
- ・カイロ大学病院では、衛生材料はじめとする機材が不足しており、本来であれば臨床で使っているものを、学生も使うのが望ましいが、病院には不足しているため、

実習のために学校からワゴンに乗せて外の道路を通過して、毎日必要物品を持って
いっている状況である。

- ・ 血圧計や聴診器、モーニングケアに必要なベースンやガーグルベースなど日本から
提供したものが、演習はもちろん病院にも持参し有効に活用されていた。
- ・ ビデオテープなども看護の指導に必要なものを作成して活用している。
「小児の人工呼吸器装着患児の看護」「頭部外傷患者の看護」を作成し、看護技術の
コツなどを紹介している。そのなかには、患者に負担をかけないようなサクシオン
技術なども盛り込まれている。
- ・ 看護実習室には医療機器や看護モデルが揃っているが、臨床現場にはないものが多
く、あっても活用されず「なくても困らない」という状況で、その必要性を十分理
解されていない様子もある。

<まとめ>

1993年から5回にわたり、プロジェクト委員として参加したが、最初に比べ教員の意識は
確実に変化してきている。

看護に対する心構えが変わったように思う。

研修員が勉強になるかならないかは、個人の学ぶ姿勢にかかっており、前向きに研修され
た人は、多くの気づきをされており、これでいいと思っている人は、こちらが意図的にかか
わっても関心を示さないなど、指導の難しさもあった。

特に言葉の障害が共通理解できないことでもあったと思われる。また国民性・文化の違い
などもあるが、看護の理念は世界共通であり、共通理解していきたいことである。

研修員自身は、臓器移植などの高度医療に対する関心が強かったり、ME機器やその操作
などハード面への興味が強く、私たちが大切に考えている、患者に直接かかわる看護ケア実
践へのニーズは低かった。

そんななかで看護のあるべき姿を理解し、行動化されるまでには、これから彼女たち自身
で、自国の看護をどうしていくか真剣に取り組むことであり、その考える基礎に日本の看護
が生かされれば何よりである。

教育現場と臨床施設の現状は懸け離れており、患者のとまどった表情や不安な表情が印象
的であり、よい看護学生を育てるには、臨床の場面で、診療の介助だけでなく、もっと看護
婦が直接患者に話しかけたり、手をとって介助する場面が必要である。

研修員は自国では大学教育を受けたエリートではあるが、臨床経験がまったくなくて教育
にかかわっているため、今回の研修を通し認識を新たに、臨床看護の改革につながること
を期待している。

看護は実践してみせることが大事であり、できないことだけを指摘やチェックをするのではなく、よい面や頑張っているところを認めながら育てることの重要性も理解してほしいことである。

ワークショップなどでも、日常生活の援助の大事さや看護管理のありかた、看護組織について、母子看護でも清潔観念の不足や母子看護における心理面のケアなど、細やかな部分を伝えたいと思うが、学問的知識重視のエジプトでは、他国の看護を理解し実践に移すかは、個々人が真剣に自国の看護をどうしたいか、考えていかなければ何ごととも生かされない結果になる。

5 - 2 プロジェクト運営管理の適正度

カイロ大学は23の学部と3つのHigh Instituteから構成されており、看護学科（H I N）はその3つのうちのひとつである。

H I Nが学部としての位置づけにないことから、プロジェクト開始当初より予算面を中心にプロジェクト活動を阻害する要因となることが危惧されてきたのも事実である。

確かにさらなる権限強化を図るうえで、High Instituteから学部への昇格されることは望ましいことであり、そのための申請手続きもとられてきたが、大統領署名直前になって政府内の組織改編の影響もあり保留状態となっている。

しかしながら、H I Nは現カイロ大学総長が無償資金協力による新校舎建設当時担当副総長でもあったこともあり、大学本部からも強力な支援体制がとられている。

カイロ大学教授会にも学科長、副学科長が出席しており、教科教育内容の決定においても一定の権限を与えられている。

また、予算要求も直接カイロ大学本部事務局に対して行っており、医学部を介する必要はない。

H I Nは日本語では便宜上看護学科と訳される（前述のように、少なくとも看護学部ではない）が、実際には一学部の附属学科ではなく大学本部に直結し、ある程度自治権限を有した機関との見方ができる。

H I N内においても日常業務上これまで学部昇格の遅滞がプロジェクト活動上の障害となったという認識はされていない。

これは運営上の人員確保や財務体制の両面で明らかである。

（1）人員確保状況

看護学科は教員在籍133名、内現任数103名、事務職員91名の人員で構成されている（1995年当時の組織図は資料6のとおり）。

これまでプロジェクトにかかわってきたカウンターパートは、日本で研修を受けた者を含めほとんど本学科の教職を離れていない。

ちなみにカウンターパート研修参加者17名中H I Nを離れているのは国外出向者1名のみであり、また集団ノ特設研修参加者5名全員がH I N勤務中と、カウンターパートの定着率は非常に高い。

これはカイロ大学看護学科における教員の給与レベルが一般的に高水準にあること、また社会的地位も内外から高く評価されていることが要因となっている。

J I C Aがエジプト保健省の協力のもとで実施している看護教育の第三国研修においても、カイロ大学看護学科の教員が多数講師を務めているのをはじめとして、エジプトで実施される各種保健医療教育の分野において重要な役割を担っているといえる。

こうした状況のもと、本プロジェクトの活動においてエジプト側の人員確保の面では特に障害はなかった。

(2) 財務体制

エジプトにおいては、プロジェクトの開始前より国民の健康増進、疫病の治療、予防に従事する看護職務者増員計画が実行に移されてきたが、これとともに看護教育における教員の養成の必要性が高まり、また国家としても保健医療政策を重要視してきた。

以上のような背景もあり、カイロ大学内においても前述したように看護学科の財政調達能力は概して優れており、H I N全体の予算も新校舎完成後は従来の3.5倍に増強され、人件費、施設ノ機器の維持管理費に関しては支障なくまかなわれている。

5 - 3 自立発展の見通しと今後の対応

本件プロジェクトの実施機関であるカイロ大学看護学科の自立発展性は、技術的な蓄積はそのスタッフの充実によりある程度確保されているといえる。

もちろん、エジプト側は本件プロジェクト協力期間内で達成し得ない点として以下の項目をあげており、技術、あるいは予算上の制約により今後も何らかの形で日本側の支援が得られることを期待している。

- (1) 看護実習施設の指導者看護婦の技術能力向上は、救急医療、I C Uなどの一部を除いて十分ではなく、これを達成するうえで臨床技術向上に関連したJ I C Aの集団、あるいは個別研修への割当てに際しての配慮を望まれている。

また、臨床実習のためのモデル病棟における臨床看護技術の開発への協力(専門家の派遣による技術指導含む)も期待されている。

(2) 図書館内の書籍はJICAの機材供与費で購入されたものも加えると相当数(1万2000冊以上)の蔵書を誇っているが、当初計画の1万5000冊には達しておらず、引き続き書籍購入が必要として日本の支援を求めている。

また、ビデオ教材もまだ十分とはいえず、これについての支援も求められている。

(3) そのほか病院勤務者、学内職員とその家族に保健医療サービスを提供する計画でHIN内に設置されているPHCユニットは開設のための予算が付いておらず、現在実習室として使用されているが、このユニットの運営開始に関する協力の要望もあった。

また、これまでの技術の蓄積を生かして将来は第三国研修を日本の協力により実施したいという意向も表明された。

エジプト保健省ではすでに看護教育分野の第三国研修を実施中であり、類似案件を同時に実施することになるのではと先方の真意を確認したところ、保健省との相違点として、国の看護政策立案にかかわるトップリーダーに対するセミナーを想定している、また対象国も中東、あるいは仏語圏アフリカ(仏語に堪能な教員を有している由)を想定しているとの説明もあった。

プロジェクトの成果を第三国研修により周辺国に普及したいという積極的姿勢に配慮し、取りあえず先方要望を合同評価報告書に記載、JICAエジプト事務所に報告したが、本件取扱いの判断を含め、今後の調整は本部研修事業部と現地事務所の間で実施していくのが妥当と思われる。

資 料

- 1 合同評価報告書
- 2 プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）
- 3 カイロ大学看護学部教員数・生徒数の推移
- 4 カイロ大学看護学部教科別・職階別教員数の推移
- 5 HIN STAFF DEVELOPMENT PROGRAM
- 6 カイロ大学看護学部組織図

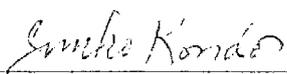
THE JOINT EVALUATION REPORT
ON THE TECHNICAL COOPERATION
FOR
THE PROJECT FOR THE HIGH INSTITUTE OF NURSING, CAIRO UNIVERSITY
PREPARED BY
THE JAPANESE EVALUATION TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
ARAB REPUBLIC OF EGYPT

The Japanese Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Prof. Junko KONDO, President, Tenshi Women's College, visited the Arab Republic of Egypt from October 23 to November 4, 1998 in order to evaluate the implementation and achievements of the Project for the High Institute of Nursing, Cairo University (hereinafter referred to as "the Project") based on the Record of Discussions signed on October 20, 1993.

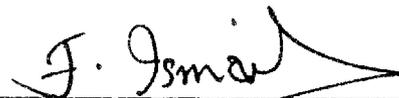
During its stay in the Arab Republic of Egypt, the Team held a series of discussions, observations and exchanged views with the authorities concerned of the government of the Arab Republic of Egypt.

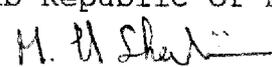
As a result of the discussions, both parties agreed upon the matters referred to in the document attached hereto.

Cairo, November 1, 1998



Prof. Junko KONDO
Leader,
Evaluation Team,
Japan International Cooperation
Agency
Japan



Prof. Dr. Farouk ISMAIL
President,
Cairo University
Arab Republic of Egypt


Prof. Dr. Mootaz El SHERBINY
Dean,
Faculty of Medicine,
Cairo University



Prof. Dr. Cheherezade GHAZI
Director,
High Institute of Nursing,
Cairo University

I List of Participants

1. Egyptian Side

- 1) The High Institute of Nursing, Cairo University
 - (1) Dr. Cheherezade M. Ghazi Director of HIN
 - (2) Dr. Eman Mourad Former Director
Professor for Community Health
Nursing Dept.
 - (3) Dr. Nilufer R. Shafik Deputy Director for Higher
Education
 - (4) Dr. Aisha A. El Sayad Deputy Director for Educational &
Student Affairs
 - (5) Dr. Saneya M. Rizk Deputy Director of
Environmental & Community Affairs
 - (6) Dr. Shadia A. Sharaf Head of Medical-Surgical &
Fundamental Nursing Dept.
 - (7) Dr. Neemat M. Youssef Acting Head of Pediatric Nursing
Dept.
 - (8) Dr. Yousria A. El Sayed Acting Head of Maternal & Newborn
Child Health Nursing Dept.
 - (9) Dr. Hedeya A. El Sayed Acting Head of Community Health
Nursing Dept.
 - (10) Dr. Enayat A. Khalil Acting Head of Psychiatric
Nursing Dept.
 - (11) Dr. Laila M. Abdou Acting Head of Administration
Nursing Dept.
 - (12) Ms. Mahassen Ashour Director of Personnel
Administration
 - (13) Ms. Yousria Zaki Head of Library

Dr. Ghazi

J. Kondor

2. Japanese Side

1) Evaluation Team

- | | |
|---------------------------|--|
| (1) Prof. Junko KONDO | Team Leader,
President, Tenshi Women's College |
| (2) Prof. Tomoko MARUYAMA | Professor, Faculty of Health
Sciences Sapporo
Medical University |
| (3) Ms. Yoko TERUI | Director of Nursing,
Sapporo Medical
University Hospital |
| (4) Ms. Atsuko NEMA | Librarian, The Japanese Red Cross
College of Nursing |
| (5) Mr. Tsutomu NAKANO | Deputy Director, Second Medical
Cooperation Division, Medical
Cooperation Department, JICA |

2) Japanese Experts

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| (1) Ms. Kyoko TATEYAMA | Chief Advisor |
| (2) Mr. Katsunori SHIRAI | Coordinator |
| (3) Ms. Toshiko YAMAMOTO | Library Management |
| (4) Ms. Chikako NAGAHORI | Clinical Nursing |

3) JICA Egypt Office

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| (1) Ms. Ritsuko SAKAMOTO | Assistant Representative |
|--------------------------|--------------------------|

Ch. Ghazi

J. Kondo

II Background of the Project

The High Institute of Nursing, Cairo University, The Arab Republic of Egypt and JICA signed the Record of Discussions (R/D) on the technical cooperation for the Project for the High Institute of Nursing, Cairo University on October 20, 1993 for the purpose of improving health, medical and welfare services in Egypt.

In accordance with the R/D, the Project has been implemented steadily for strengthening and improving the functions and activities of the High Institute of Nursing, Cairo University.

About six months prior to the completion of the Project, the Team was dispatched to the Arab Republic of Egypt for the following purposes:

1. to evaluate with the Egyptian authorities concerned the past achievements and future prospects of the Japanese Technical Cooperation
2. to make recommendations for improvements in the implementation of the Project in the remaining period.

III Method of Evaluation

1. Material used as reference

In order to evaluate the past performance and achievements both in quantity and quality, the following materials were used as a basis of reference.

- 1) The Record of Discussions (R/D)
- 2) Tentative Schedule of Implementation
- 3) The Minutes of Discussions agreed upon by both authorities concerned on the course of the implementation of the Project.

2. Discussions and Observations

The Team discussed various aspects of the Project and observed the buildings, machinery, equipment, facilities made available for the Project.

Ch. Ghazi

J. Kondo

IV Objectives and Planned Activities

According to the R/D, the objectives and activities of the Project are defined as follows:

1. The objective of the Project is to strengthen and improve the functions and activities of the High Institute of Nursing.
2. The Project consists of the following activities:
 - 1) To review the annual syllabus and evaluate the outcome.
 - 2) To conduct nursing education research.
 - 3) To improve knowledge and skills on nursing theories, nursing practice, and teaching methods of teaching staff and graduate students specialized in nursing education.
 - 4) To plan and conduct staff training programmes periodically at HIN and in each department.
 - 5) To hold nursing education workshops once or twice a year
 - 6) To make understand the importance of the use of educational aids and resources, and encourage the production and use of the teaching materials.
 - 7) To improve the production and use of audio visual teaching materials.
 - 8) To exchange knowledge and expertise in school administration techniques between the Japanese experts and the Egyptian counterparts.
 - 9) To improve library administration techniques.
 - 10) To improve equipment administration techniques.
 - 11) To establish cooperative links between the staff of HIN and the nursing directors, head nurses and staff nurses at teaching hospitals.
 - 12) To install the sufficient training equipment at the training hospital.
 - 13) To improve knowledge and skills on patient care of nurses in collaboration with teaching hospitals.
 - 14) To arrange necessary educational materials which are used by nurse students at clinical training in the training hospitals for effective learning.

Ch. Ghazi

J. Kondou

V IMPLEMENTED ACTIVITIES

1. Dispatch of Japanese Experts
Through the project, 7 long-term experts and 33 short-term experts were dispatched and transferred technology in each of their respective fields (see Annex I).
2. Training of the Egyptian Counterparts
Through the project, 17 counterparts were trained by the Counterpart Training programme in Japan. (see Annex II).
3. Supply of Equipment and Materials
Through the project, equipment and materials were provided to support the activities in HIN (see Annex III).
4. Workshops and Seminars, etc.
Through the project, workshops and seminars were implemented to help improve curriculum and teaching methods for nursing education(see Annex IV).
5. Local Costs
Both Parties participated in the provision of local costs for the implementation of the project.

Ch. Ghazi

J. Kondo

VI ACHIEVEMENT OF THE PROJECT

1. Improvement of the curriculum and teaching methods for nursing education

In addition to the conventional way of lecture, a certain emphasis was put in the classroom to provide students with opportunities to make presentation on what they have studied with a view to promote self learning.

Being aware of the problems still existing the HIN is in the process of studying ways and methods for the improvement of the situation.

Development of clinical skills was facilitated by the availability of well equipped and designed skill labs. The equipment and facilities supplied under the grant aid/technical cooperation programme of JAPAN has contributed to provide a good teaching environment at the HIN.

In addition the facilities available have also lately offered the opportunity for the provision of clinical training in nursing and first aid skills to medical students and to other disciplines interested in first aid.

2. Training of the teaching staff in nursing education

Many workshops have been planned and implemented by the HIN staff in collaboration with JICA experts for:

- a. HIN teaching staff, Cairo University
- b. Other HIN staff in various Universities
- c. Directors of nursing and staff nurses working in various institutions (MOH, University, Insurance and Curative organization etc).
- d. Specialists in the medical and psycho-social field

In these workshops, medical and psycho-social staff have also collaborated for the implementation of certain sessions.

These workshops were excellent means for the promotion of the nursing profession and the nursing image.

3. Improvement of the educational aids and resources for nursing education and training

All available hardware as well as models, and computers have greatly enhanced the development of information technology and management of education and has stimulated the younger generation's motivation towards learning and development of certain skills.

Field training, locally and in Japan, has helped in the development of skills necessary for the use of the available materials.

All available hardware, projectors and data show were confirmed to be used effectively in the clinical laboratory and other set ups.

Video tapes were also produced in Japan and Egypt and used

Ch. Ghazi

J. Kondor

y the HIN staff for the improvement of nursing and health education.

However, there is still a need for the development of skills necessary for software planning and production.

4. Improvement of the management of HIN; i.e. personnel management, financial management, equipment management and building facilities management of HIN

On the commencement of the Project, there was some apprehension from the Japanese side about whether the technical equipment which were supplied through JICA would be easy to operate and could be repaired.

However, there are no problems actually hampering the activities of the Project in this respect. The equipment are duly maintained and expenses for repair are financed by the HIN.

A major asset of the project is the provision of transportation which was made available through the technical cooperation and has facilitated field training and the extension to a wider range of training areas.

The facilities and equipment provided by the University and the JICA side is helping the HIN to restructure effectively the administrative set up.

5. Improvement of the technical level of nurses who are responsible for clinical training of nurse students at teaching hospitals and health care facilities

The HIN staff who had an opportunity to acquire the new knowledge and information in their field of expertise in Japan through the JICA counterpart training programme have imparted their knowledge to others through their lectures, practice and workshops at the HIN. However it was difficult to plan and implement this objective except for a few clinical areas such as the emergency unit and ICU.

There is a plan for developing ideal clinical teaching units which could be staffed by nurses already trained in Japan.

6. Improvement of library administration techniques

When the Project started there were about 7,000 books, some of which were not well preserved and had no library cards, for example.

After the completion of the new library and the start of the project, however, about 5,000 books in the field of nursing education were newly supplied by JICA.

Together with the supply of books, the technical cooperation was implemented in the field of library administration through the counterpart training program in Japan and dispatch of the JICA expert.

During the cooperation period, especially in the last 3 years, as a result of the promotion of mutual help system among the librarians under the advice of JICA expert, the efficiency of the registration, cataloging, shelf-setting, journal-binding, and the other routine work of librarian improved remarkably.

A. Ghazi

J. Kondo

It has become possible to speed up a series of procedure from arrival of the new books to book shelving, taking only 7-10 days.

This efficient library administration has made the access to the new books easier for the users and consequently, the number of users have increased remarkably.

VII Impact of the Project Achievement

※The impact of the Project is both the foreseen and the unforeseen consequences of society, whether positive or negative, at the hospital level, community level, state level or national level. (contribution of the graduates from the HIN at Cairo University to the improvement of health, medical and welfare services in Egypt)

The interaction between the HIN and the community has been strengthened through the planning and implementation of activities related to the development of the nursing profession.

Members of various disciplines have been attracted to participate in the activities and events initiated by the HIN.

In addition to that, awareness of the importance of nursing education among Egyptians seems to have been enhanced through the achievements of the Project.

VIII Relevance

※Relevance means a general assessment for whether the Project is in accordance with both the ultimate goals of the donor and recipient policy, as well as local needs and priorities.

Before the project was commenced in 1994, the government of Egypt put forward the plan to increase the number of high institute of nursing graduates for the purpose of promoting the people's health and welfare and of controlling and preventing the diseases.

With a view to fulfilling this purpose, the number of high institutes of nursing and technical health institute of nursing increased.

Consequently, in order to keep up with the nationwide demand, the need arose to strengthen the teaching staff in nursing education at the HIN in the Universities including Cairo University.

On the other hand, JICA's emphasis in technical cooperation was shifting toward the basic human needs, and this principle corresponded to the health strategy of Egypt to strengthen the nursing system, which was expected to serve improvement of the people's health and welfare.

Ch. Ghazi

J. Kondor

IX Sustainability

※Sustainability is an assessment of the extent to which the positive changes achieved as a result of the Project can be expected to last also after the Project has been terminated. In many ways, this is a question of the relation between the necessary local resources and how recipients view the Project.

1. Expertise for human resource

The teaching staff involved in the project are permanent staff members of HIN.

Even though some of the staff are temporarily assigned to assume posts in other local or international institutions, the expertise is already well established and HIN can sustain the necessary technology to continue and develop the activities unaffected.

2. Managerial perspectives

Throughout the 5 year project cooperation, Japanese side pointed out the necessity to upgrade the status of HIN so that it shall become a faculty with the view of strengthening its autonomy in the university regarding both financial and managerial aspects.

Although the status of HIN has remained the same so far, the present status has not affected the project activities, for Cairo University recognized the importance of HIN and as a result, with full autonomy, HIN could ensure the administrative and educational support to sustain its activities.

X Conclusion/Recommendations

Based on the above-mentioned achievements and accomplishments, both sides recommend following;

1. that activities continue to enhance the current excellent efforts put into the project to complete the remaining part of the cooperation.
2. that the technical expertise established in HIN through the Project be further developed and extended to other appropriate projects.

※Special remark: The evaluation team takes notes that HIN has come up with the following ideas as suggested activities for the formulation of a continued technical cooperation.

- A. Supply of adequate material;
 1. Provision of books and video tapes for teaching purposes both undergraduate and graduate levels.
- B. To develop ideal clinical units to facilitate the training of health professionals;
 2. Joint development of ideal clinical units and clinical skills.
 3. Use of experts for the development of clinical skills (preceptorship).
- C. Development of skills and specialization.
 4. planning implementation of Diploma Courses for top leaders in some specialities for Egyptians and other Arab countries (Clinical specialists).
 5. Development of a PHC unit at the institute.
 6. Group/individual training in Japan on development of clinical skills, according to the stated needs.

Ch. Ghazi

E. Kondor

Annex I

1. Long term Expert

(name)	(Field)
1)Kyoko TATEYAMA	Chief Advisor
2)Atsushi KONDO	Coordinator
3)Haruko SAITO	Library Management
4)Toshiko YAMAMOTO	Library Management
5)Kyoko TATEYAMA	Chief Advisor
6)Katsunori SHIRAI	Coordinator
7)Chikako NAGAHORI	Clinical Nursing

2. Short term Expert

1) 1994/95

(name)	(Field)
(1)Keiko OZAKI	Library Management
(2)Keiko KANBE	Library Management
(3)Junko KONDO	Nursing Education
(4)Tomiko WAKAYAMA	Adult Nursing
(5)Junko SASAKI	Pediatric Nursing
(6)Junko KONDO	Maternal Nursing
(7)Hanako HUKASAWA	Community Health Nursing
(8)Yuriko ISHIZUKA	Pediatric Nursing
(9)Yoshie YOKOTE	Adult Nursing

2) 1995/96

(name)	(Field)
(10)Tetsuro YUKUTAKE	Facilities Maintenance
(11)Haruko SAITO	Library Management
(12)Toshio OHYANAGI	Information Science
(13)Junichi NAKAYAMA	Library Management
(14)Sachiko NAKAZATO	Chief advisor/Community Nursing
(15)Junko KONDO	Maternal Nursing
(16)Tomi SATO	Adult Nursing
(17)Saeko SHIRAI	Clinical Nursing (Emergency)
(18)Midori TAKAHASHI	Clinical Nursing (Emergency)
(19)Yumiko HAYAMA	Psychiatric Nursing/ Nursing Education

3) 1996/97

(name)	(Field)
(20)Kyoko TATEYAMA	Nursing Education
(21)Kaoru CHIBA	Maternal Nursing
(22)Ryoko MATSUYA	Maternal Nursing
(23)Junko KONDO	Nursing Education
(24)Yoko TERUI	Nursing Management
(25)Michiyo KOSEKI	Public Health Nursing
(26)Michiko YASHIRO	Public Health Nursing
(27)Yumiko HAYAMA	Psychiatric Nursing

4) 1997/98

(name)	(Field)
(28)Kimiko TAKADA	Clinical Nursing (Emergency)
(29)Kumiko NAKAJIMA	Clinical Nursing (Pediatric)
(30)Masahiro FUKUMA	Audio Visual Technology
(31)Yoshiko OHMAE	Library Management

Ch. Ghazi

J. Kondor

5) 1998/99

(name)

(32) Junko KONDO

(33) Mutsuko MURAKAMI

(Field)

Maternal Nursing

Maternal Nursing

Ch. Ghazi

J. Kondo

Annex II

1. Counterpart training

- | | | |
|------|--|---------------------------------------|
| 1) | 1994/95 | (Field) |
| | (name) | |
| (1) | Eman Mostafa Mourad | Nursing Education |
| (2) | Aisha Awad El Sayed | Nursing Education |
| (3) | Yasmin Ahamed El Fouly | Nursing Library Science |
| 2) | 1995/96 | (Field) |
| | (name) | |
| (4) | Amal Fakhry Garas | Adult Nursing |
| (5) | Eglal Ahmed Abd El Wahab | Nursing Administration
(Emergency) |
| (6) | Labiba Abd El Kader Mohamed | Fundamental Nursing |
| (7) | Soheir Aly Abder Badre El din | Community Health Nursing |
| 3) | 1996/97 | (Field) |
| | (name) | |
| (8) | Samira Ibrahim Mostafa El Sharkwy | Nursing Education/Research |
| (9) | Bassamat Omar Ahmed Omer | Nursing Education/Research |
| (10) | Effat Mohamed Abd El Hady El Karmalawy | Community Health Nursing |
| (11) | Abeer Saad Zaghloul Mohamed Aswi | Maternal & New born Health
Nursing |
| 4) | 1997/98 | (Field) |
| | (name) | |
| (12) | Mohga A. El Aziz | Medical-Surgical Nursing |
| (13) | Magda A. El Molla | Nursing Administration
(Emergency) |
| (14) | Hala A. El Monen | Clinical Pediatric Nursing |
| 5) | 1998/99 | (Field) |
| | (name) | |
| (15) | Nehad Helmy Mohamed | Psychiatric Nursing |
| (16) | Soheir A. Rabour | Clinical Pediatric Nursing |
| (17) | Nadia Basyori | Maternal & New born Health
Nursing |

El. Ghazi

J. Kondor

2. Group training course

1) 1994/95
(name)

(1) Zeinab Abdel Haleen

(Field)
Audiovisual Aids

(2) Hedeya Abd El Aziz

Seminar on Human Resources
Development in Public Health

2) 1995/96
(name)

(3) Suzan Attia Abd El Sayed

(Field)
Health Hazards in the
Modernizing Process of
Agriculture & Rural Area

(4) Helalia Shalaby Mohamed

Information Processing Personnel

(5) Saneya Mohamed Rizk El Banna

Seminar on Human Resources
Development in Public Health

3) 1998/99
(name)

(6) Hanan El Kafafy Hassan

(Field)
Clinical Nursing

Ch. Ghazi

J. Kondor

Annex III

Equipment List

1. Clinical Nursing Education Equipment

(Item)	(Unit)
1)Auto-clave Eagle Century	1
2)Infant warmer PF-230SC	3
3)Embryo's Head Roatation	2
4)Auto-clave Eagle-10	2
5)Auto Spygmonometer	70
6)Aneroid Spyg	70
7)Stethoscope	70
8)Suction Pump D-58	4
9)Stand for Suction Pump	4
10)Infusion Pump OT-601	2
11)Syringe Pump with mounting	1
12)Fetal Actocardiograph set	1
13)Model Doll	24
14)Simulator	7
15)Microscope	5
16)Nursing Bed	2
17)Childbirth Phantom	2
18)Breast Model, Massage Practice	5
19)Breast Cancer Palpation	5
20)Baby Simulator, Nurse Training	5
21)Container, Body Simulator	3
22)Haemoglobin Meter	5
23)Fetal Doppler	3
24)Peproductive Health Education	5
25)Exam. Table	1
26)Suction Machine	5
27)Weight Scale Misaki BB-100	1
28)Air Mat	2
29)Weight Scale	3
30)Ambu Baby Emergency Case AN-21925	1
31)Nurse Training Doll	1
32)Minolta Jaundice Meter JM102	1
33)Sterilizer	1
34)Blood Collection & Intravenous	1
35)Small Operating Instrument Set	1
36)Continuous Suction Unit.Shinei	1
37)Doppler Fetus Detector FD-300	1
38)HemoCue B-Clucose Analyzer	5
39)Nursing V.T.R.	20
40)Infant Basket with Springscale	100
41)Nursing Bag	(200)

2. Audio Visual Material List

(Item)	(Unit)
1)Video Projector	1
2)TV Monitor with Video Player	14
3)Over Head Projector	7
4)Direct Projector	2
5)Slide Projector	8

Dr. Ghazi

J. Kondor

6)Wireless-Mike	1
7)TV Stand	7
8)8 mm Video Camera	1
3. Nursing Books	
(Fiscal Year)	(Copy)
1) 1994/95	287
2) 1995/96	425
3) 1996/97	894
4) 1997/98	2006
5) 1998/99	1432
4. Others	
(Item)	(Unit)
1)Copy Machine	3
2)IBM Computer	7
3)Computer Printer for IBM	7
4)Bus	2
5)Jeep	2
6)MITAC Computer	10
7)Computer-soft	3
8)UPS	11
9)Data Switch	4
10)Computer Printer	6
11)Camera	10
12)Printing Machine	4
13)Typewriter	1
14)Macintosh Computer	4
15)Computer-soft	4
16)Computer Printer for Mac	2
17)Computer Printer for other	1
18)Paper Drill 1017	1
19)Transformer	2
20)Bookend	150
21)Crystal Video Camera	1
22)Stop Watch	5
23)Book track	13
24)others	-

Ch. Ghazi

J. Kondor

Annex IV

1. Workshops and Seminars

1) 1994/95		
	(programme)	(participant)
(1)	Symposium Curriculum Review I	100
(2)	Symposium Curriculum Review II	140
(3)	Personal Computer Training 6 type courses	519
2) 1995/96		
	(programme)	(participant)
(4)	Symposium Curriculum Review III	310
(5)	Psychiatric Nursing Conference	80
(6)	Fundamental Nursing Workshop I	160
(7)	Nursing Administration Workshop I	160
(8)	Technical Exchange Programme for Turkey	4
(9)	Audio Visual Training I	5
3) 1996/97		
	(programme)	(participant)
(10)	Audio Visual Training II	9
(11)	Audio Visual Training III	9
(12)	Community Health Nursing Workshop I	240
(13)	Medical Surgical Nursing Workshop I	80
(14)	Maternity & Health Nursing Workshop I	180
4) 1997/98		
	(programme)	(participant)
(15)	Audio Visual Training IV	21
(16)	Audio Visual Training V	80
(17)	Library Staff Training	10
(18)	Community Health Nursing Workshop II	300
(19)	Community Health Nursing Staff Training	91
(20)	Psychiatric Nursing Workshop I	96
(21)	Medical Surgical Nursing Workshop II	300
(22)	Pediatric Nursing Workshop I	192
(23)	Pediatric Nursing Staff Training I	79
(24)	Nursing Administration Workshop II	320
(25)	Nursing Administration Staff Training I	15
5) 1998/99		
	(programme)	(participant)
(26)	Medical Surgical Nursing Stage I	100
(27)	Medical Surgical Nursing Stage II	100
(28)	Medical Surgical Nursing Staff Training I	70
(29)	Medical Surgical Nursing Workshop III	140
(30)	Maternity & Health Nursing Workshop II	40
(31)	Pediatric Nursing Workshop II	40

Ah. Ghazi

J. Kondor

2 プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM)

プロジェクト要約 Narrative Summary	指 標 Verifiable Indicators	指標アーク入手手段 Means of Verification	外部条件 Important Assumptions
上位目標 Overall Goal 看護学部の卒業生がエジプト国の保健医療、福祉に貢献する。	卒業生の就業率	保健省看護課のH I N卒業生の動向に関する統計	1. エジプトで保健医療福祉サービスに必要な数の医者と準医療従事者が確保される。
プロジェクト目標 Project Purpose 看護学部の機能を強化し、レベルアップする。	1. 教員の数 (対学生数) 2. 教員の学士、修士、博士号保有者の比率	(官庁統計、サンプリング調査など) H I Nの教員・職員・学生に関する統計資料	1. 看護学部の卒業生がエジプト国内の保健医療及び教育の機関で看護婦のリーダーとして勤務する。
成果 Outputs 1. 看護教育方法とカリキュラムが改善される。 2. 看護教育に当たる教員が養成される。 3. 教育及びトレーニングに活用される教育用メディアが強化される。 4. 看護学部運営技術が向上する。 5. 看護実習施設の指導者看護婦の技術能力が向上する。	活動の各項目	1. 卒業生の学力レベル 2. カリキュラムそのもの 年間教授計画 (各領域ごと)、報告書、研究実績 3. H I N教員研修計画と各部よりの年次報告書 4. 学生の研修報告書 5. 研修道具のリスト 6. 視聴覚器具の使用頻度、自習学生の数、図書館の使用頻度と管理報告	1. 訓練された看護学部の教員と適切な規模の卒業生が看護教育者としてH I Nにとどまる。 2. 訓練された大学の管理・事務責任者がH I Nで勤務を続ける。 3. カイロ大学が教材、特にパーソナルコンピュータの保守管理に必要な予算を確保できる。 4. 必要な数の学生が入学する。
活動 Activities 1-1. 年間教科教授計画を査定し実施結果の評価を行う。 1-2. 看護教育研究を行う。 2-1. 看護教員及び大学院学生の看護理論、実践、教育技術に関する知識を向上させる。 2-2. 学内及び各専門看護研究室において、研修プログラムを定期的に企画、実施する。 2-3. 年1-2回程度の看護教育ワークショップを実施する。 3-1. 教育学的メディア、特に教材製作について理解させ、その製作と使用方法を奨励する。 3-2. 視聴覚教材の製作、活用方法を向上させる。 4-1. 学校管理技術の知識、経験を日本人専門家とエジプト人カウンターパートの間で交換する。 4-2. 図書館管理技術を向上させる。 4-3. 機材管理技術を向上させる。 5-1. 実習病院の看護婦長、主任看護婦、スタッフナースとの間で協力関係を樹立させる。 5-2. 実習病院の看護婦に対し、患者のケアについて指導、助言する。 5-3. 実習病院で使用する実習機材を充足する。	投入 Inputs 機材: 予算 専門家: M/M (Unit Cost) 機材の年次供与 専門家携行機材 長期専門家 短期専門家 相手側研修生 調査団 現地費用供出		1. 各専門分野看護のカウンターパートがプロジェクト実施中に配置される。 2. 適切な実習病院が確保される。 3. 一の維持管理に必要な経費が確保される。 4. 大学の運営・事務管理に必要な人員が確保される。 5. 大学施設の維持管理に必要な人員と経費が確保される。 前提条件 Pre-conditions 1. エジプト側が無償資金協力に係る付帯条件を遵守する。(施設維持管理等)

3 カイロ大学看護学部教員数・生徒数の推移

Movement of No.

EGYPT	1993	1994	1995	1996	1997	1998	
No. of HIN	6	6	7	9	9	10	
HIN graduates(1)	637	722	817	851	743	973	
No. of THI	4	4	5	6	14	15	
THI graduates	226	168	179	208	474	324	
No. of TSN	213	212	212	226	231	241	
TSN graduates	8,200	7,200	8,158	8,587	7,840	Yet	
CAIRO HIN Student	92/93	93/94	94/95	95/96	96/97	97/98	98/99
1st Year	132	142	139	247	215	223	130
2nd Year	97	117	150	147	239	240	233
3rd Year	97	86	77	113	111	146	125
4th Year	89	102	96	81	109	106	137
total	415	447	462	588	674	715	625
Internship	73	89	88	85	69	70	85
Grand Total	488	536	550	673	743	785	710
Graduate Student(2)	64	88	85	65	94	65	
(2)/(1)	10%	12%	10%	8%	13%	7%	
Master Course			58	75	56	72	74
Doctor Course			16	19	24	11	35
Total No. of student			624	767	823	868	819
Teaching staff	92/93	93/94	94/95	95/96	96/97	97/98	98/99
Prof.		3	5	5	9	9	10
Asst. Prof.		18	19	24	24	24	23
Lacturer		39	23	20	17	18	18
Asst. Lact.		20	13	16	22	27	27
(No. of Dr. student)							
Clinic. Inst.		34	44	48	57	55	55
(No. of Ms. student)							
Total Teaching Staff		114	104	113	129	133	133
Actual Working No.			87	90	95	103	

4 カイロ大学看護学部教科別・職階別教員数の推移

要請書提出時（1988年）、技術協力開始時（1994年）、技術協力終了時（1999年）

教科別	基礎看護学			内科外科看護学			母性看護学			小児看護学			精神看護学			地域看護学			看護管理学		
	'88	'94	'99	'88	'94	'99	'88	'94	'99	'88	'94	'99	'88	'94	'99	'88	'94	'99	'88	'94	'99
年	'88	'94	'99	'88	'94	'99	'88	'94	'99	'88	'94	'99	'88	'94	'99	'88	'94	'99	'88	'94	'99
教授	0	0	4	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	1
助教授	2	4	0	1	4	7	1	3	3	1	1	3	0	3	4	1	1	4	2	3	3
講師	0	3	5	3	6	2	0	1	1	1	4	6	1	3	1	4	7	3	1	3	2
小計	2	7	9	5	11	11	1	4	4	2	5	9	1	6	6	6	9	9	3	6	6
助講師	2	3	5	0	0	2	0	2	4	1	2	4	0	2	2	0	1	4	0	0	2
助手	0	2	8	0	6	13	3	6	9	3	5	6	2	5	5	1	7	7	3	7	7
小計	2	5	13	0	6	15	3	8	13	4	7	10	2	7	7	1	8	11	3	7	9
合計	4	12	22	5	17	26	4	12	17	6	12	19	3	13	13	7	17	20	6	13	15

5 HIN STAFF DEVELOPMENT PROGRAM

YEAR	TOPICS	DATE	PLANNED BY DEPARTMENT	No. of PARTICIPANT	PARTICIPANT OUT OF HIN	REMARKS
1994	{Symposium} Curriculum Review	Sep. 21	Curriculum Committee	100		
1995	{Workshop} Curriculum Review Phase I	Mar. 27-29	Curriculum Committee	140		
1995	{Workshop} International council of nurses	Oct.	Mental Health/ Psychiatric Nursing	80		
1995	{Workshop} Curriculum Review Phase II	Dec. 11-13	Curriculum Committee	310		
1996	{Workshop} Clinical Nursing and ward management in emergency department	Mar. 9-11	Nursing Administration	160		
1996	{Workshop} Setting Educational Objectives	Sep. 9	Medical Surgical Nursing	80		
1996	{Symposium} Advances in Maternal Newborn Health Care Implications for Future Nursing Roles	Oct. 22	Maternal and Newborn Health Nursing	180		
1996	{Workshop} New Trends In School Health Services(Recommend Nursing Role)	Nov. 12-13	Community Health Nursing	240		

1997	{Workshop} As a clinical Teaching Setting for student nursing	Oct. 25-26	Medical Surgical Nursing	300		
1997	{Workshop} Revising the current policy of the Internship program	Nov. 30, Dec. 1	Nursing Administration	320		
1997	{Workshop} Situation of handicapped child in Egypt implication to the nursing role	Dec. 21-22	Community Health Nursing	300		
1998	{Staff Training} Cardiopulmonary resuscitation for nursing Team at section 9 Emergency Department	Mar. 7	Nursing Administration	15		
1998	{Symposium} Physical Assessment of Children	Mar. 14-15	Pediatric Nursing	79		
1998	{Symposium} Current Project of Family and Community Medicine	Mar. 17	Community Health Nursing	91		
1998	{Workshop} Breast feeding and infants with special health needs	Mar. 28-29	Pediatric Nursing	192		
1998	{Symposium} Toward better health care for elderly people	Mar. 25	Psychiatric Nursing	96		

1998	{Workshop} The effect of designing and implementing a teaching training program on promoting faculty assistants competence in nursing clinical instruction STAGE I	Apr. 18	Medical Surgical	100		
1998	{Symposium} Fetal and Neonatal well-being	Apr. 29	Maternal and Newborn Health Nursing and Pediatric Nursing	80		
1998	{Workshop} The effect of designing and implementing a teaching training program on promoting faculty assistants competence in nursing clinical instruction STAGE II	May. 25	Medical Surgical	100		
1998	{Workshop} Scientific Session Oncology an overview	Jun. 29	Medical Surgical	70		
1998	{Workshop} Evaluation and Test Construction	Jul. 15-16	Medical Surgical	140		
1998	{Workshop} Stress Management	Nov. 24-26	Director Office	35		
1998	{Skill Development} Physical assessment of children	Nov. 30 Dec. 1,2,3,5,6	Pediatric Nursing	30		
1998	{Workshop} Introduction to Counseling	Nov. 30, Dec. 2-3	Director Office	12		
1998	{Symposium} Quality care maternal newborn health care: Medical and nursing perspectives	Dec. 2	Maternal and Newborn Health Nursing	68		

1998	{Symposium} Infection transmitted by blood. New trends in blood transfusion	Dec. 9	Medical Surgical	216		
1998	{Symposium} Psychological aspects of Pediatric Nursing	Dec. 12	Pediatric Nursing	50		
1998	{Staff Training} Neonatal Assessment	Dec. 3,5,6,10	Maternal and Newborn Health Nursing			
1999	{Staff Training} Counseling	Feb. 13-15	Community Health Nursing			
1999	{Follow up program} For (stress management) and (counseling)	Feb. 22 Mar. 1,8,15	Director Office			

6 カイロ大学看護学部組織図 (1998年10月1日現在)

